

平成30年村上市議会第1回定例会会議録(第2号)

○議事日程 第2号

平成30年2月21日(水曜日) 午前10時開議

第1 会議録署名議員の指名

第2 平成30年度村上市施政方針及び議第10号から議第20号までに対する代表質問
議第10号から議第20号まで委員会付託

○本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

○出席議員(25名)

1番	小 杉 武 仁 君	2番	河 村 幸 雄 君
3番	本 間 善 和 君	4番	鈴 木 好 彦 君
5番	稲 葉 久 美 子 君	6番	渡 辺 昌 君
7番	尾 形 修 平 君	8番	板 垣 千 代 子 君
9番	鈴 木 い せ 子 君	10番	本 間 清 人 君
11番	川 村 敏 晴 君	12番	小 杉 和 也 君
14番	竹 内 喜 代 嗣 君	15番	平 山 耕 君
16番	川 崎 健 二 君	17番	木 村 貞 雄 君
18番	小 田 信 人 君	19番	長 谷 川 孝 君
20番	小 林 重 平 君	21番	佐 藤 重 陽 君
22番	大 滝 国 吉 君	23番	大 滝 久 志 君
24番	山 田 勉 君	25番	板 垣 一 徳 君
26番	三 田 敏 秋 君		

○欠席議員(なし)

○地方自治法第121条の規定により出席した者

市 長	高 橋 邦 芳 君
副 市 長	忠 聡 君
教 育 長	遠 藤 友 春 君
総 務 課 長	佐 藤 憲 昭 君

財 政 課 長	田	邊		覚	君
政策推進課長	山	田	和	浩	君
自治振興課長	川	崎	光	一	君
税 務 課 長	建	部	昌	文	君
市 民 課 長	尾	方	貞	一	君
環 境 課 長	中	山		明	君
保健医療課長	信	田	和	子	君
介護高齢課長	小	田	正	浩	君
福 祉 課 長	加	藤	良	成	君
農林水産課長	山	田	義	則	君
商工観光課長	竹	内	和	広	君
建 設 課 長	中	村	則	彦	君
都市計画課長	東	海 林	則	雄	君
下水道課長	早	川	明	男	君
水道局課長補佐	内	山	治	夫	君
会 計 管 理 者	中	村	る	み 子	君
農業委員会 事務局 長	小	川	寛	一	君
選管・監査 事務局 長	佐	藤	直	人	君
消 防 長	長		研	一	君
学校教育課長	木	村	正	夫	君
生涯学習課長	板	垣	敏	幸	君
荒川支所長	小	川		剛	君
神林支所長	鈴	木	芳	晴	君
朝日支所長	岩	沢	深	雪	君
山北支所長	斎	藤	一	浩	君

○事務局職員出席者

事 務 局 長	小	林	政	一
事 務 局 次 長	大	西	恵	子
係 長	鈴	木		涉

午前 9時59分 開 議

○議長（三田敏秋君） ただいまの出席議員数は全員です。定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

本日の会議は、お手元に配付の議事日程により議事を進めますので、よろしくご協力をお願いします。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（三田敏秋君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則の規定によって、8番、板垣千代子さん、22番、大滝国吉君を指名いたします。ご了承願います。

日程第2 平成30年度村上市施政方針及び議第10号から議第20号までに対する代表質問

議第10号から議第20号まで委員会付託

○議長（三田敏秋君） 日程第2、これから平成30年度村上市施政方針及び議第10号から議第20号までの11議案に対する代表質問を行います。

代表質問は、配付してあります代表質問通告者一覧表の順に行います。

最初に、鷲ヶ巣会の代表質問を許します。

22番、大滝国吉君。（拍手）

○22番（大滝国吉君） おはようございます。鷲ヶ巣会を代表いたしまして、会派の代表質問をさせていただきます。

まず、この前の冬季ピョンチャンオリンピックで、本市の出身、平野歩夢選手が2大会連続の銀に輝きました。私もパブリック会場で応援させていただきましたけれども、会場内では大変な盛り上がりを持ち、私もすごい感動を持ちました。本人の努力はもちろんですが、ご家族や彼を支えていただいた方々に心から感謝と祝福をお送りいたします。また、今回現地に行かれて応援をくださった副市長、教育長、議長、板垣会長を初めとする応援団の方々、大変ご苦労さまでございました。これから彼がもっともっと世界で活躍できるように、市を挙げて応援していかなければならないと思っております。そのためにもスケートパーク建設が彼らの拠点施設として活躍できるよう、しっかりと取り組みをしていかなければならないと私は考えております。

そこで、市長、市長は常々おっしゃってはおりますが、いま一度その思いを伺いたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） おはようございます。

それでは、ただいまのご質問につきましてお答えをさせていただきたいというふうに思っており

ますが、いずれにしましても、今回の2大会連続の銀メダル、平野歩夢選手のこれらの快挙、先日も申し上げましたとおり、世界が確たる彼の地位を認めたといい大会になったのではなかろうかなというふうに思っております。それを踏まえて、就任以来スケートパークのリニューアルということに取り組みをさせていただきました。これは、彼らのみならず、彼らの背中、彼らと申しますか、平野歩夢選手の背中を追い求めて、今子どもたちが、若い世代の子どもたちが本当に多くあそこに集っています。これは村上市内に限らず、市外からも来ていただいている。やはりそういう力が平野歩夢選手の背中には宿っているのだらうなというふうに思っております。ですから、そういった意味を含めまして、これは今彼らを支えていくことはもちろんでありますけれども、これから次の時代を担う若い世代もしっかりとそこを拠点とし、あそこを足場にして大きく羽ばたいていただけるような、そういう施設につくり上げていくということが我々の責務なのだろうということを、また改めて感じましたし、確信をいたしましたので、しっかり取り組みをさせていただきたいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） 市長、よろしく願いいたします。

それでは、平成30年度村上市施政方針について、この市長がきのう説明したことから徐々に質問をさせていただきたいと思います。

合併して10年、人口が約1万人減るような市であります。大変市長も人口減少問題を重要課題として取り組んでいきたいというようなことをおっしゃられております。まさに私もそう感じておるところでございます。その中で、一般会計総額が342億7,000万円、前年度比3.9%の増、市税、交付税におかれましては、減となっているところでありますが、全体を見ますと3.9%と盛り上がっている、大変厳しい中にも各課のいろいろな要望を捉え、今の地域の現状を見ながら編成した、大変厳しい中にもいろいろ目配りがあるのではなかろうかなと感じているところでございます。大変執行部の皆さんにはご苦労さまでございました。

そこで財政課長、きのうも財政課長が交付税、今回2億7,000万円減ると。平成33年度ころまでにはもう少し減っていく段階ではなかろうかというふうなことをおっしゃられておりましたけれども、その点についてもう少し詳しくお聞かせ願えればと思いますが。

○議長（三田敏秋君） 財政課長。

○財政課長（田邊 覚君） 平成30年度が平成29年度に比べて2.7億円減っておりますが、この後平成32年までの間、今の想定では毎年普通交付税のほうですけれども、2億円ずつ減って行って、きのうもちょっとお話をいたしましたけれども、平成27年度、これ合併の特例がそのまま適用されておりました期間ですけれども、平成27年度に比べまして、その特例がなくなります平成33年度においては11億円の減少が見込まれるということでございます。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） ありがとうございます。

今回いろいろな大型事業がある中で、市債も10億円以上、前年度よりふえております。今回のみならず、これからもそういう大型事業が予想されると思いますが、その辺を踏まえてこの市債等、交付税が減っている、この割合の中でどのような財政仕組みを持っていけばいいのか、その辺のところを市長はどういうふうなお考えを持っておりますか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 今ほど財政課長のほうから申し上げましたとおり、平成27年と平成33年度をこれ比較すると、10.2億円、これ減少するわけでありますけれども、それと同時に、かかるコスト部分についても、人口減少する中で、公共投資部分といいますか、公共でやる行政サービスの事業部分についても若干縮小していくと。そのトータルのバランスを見ながら今後の推移ということで、昨日も財政計画の中から一端をご披露させていただいたわけでありますけれども、さらには私ども今回合併によりまして、過疎地域という自治体の指定を受けております。この過疎地域における財政支援という、昨日も財政課長のほうから若干ご説明をさせていただきましたけれども、国の施策としては、過疎法に基づく財政支援があります。ですから、通常の起債事業と比較をしますと、非常に有利な、70%を超える地方交付税で今年度に返ってくるという仕組みでありますから、今回のスケートパークにつきましても、総事業費17億円弱の事業でありますけれども、それを過疎債で充当しておりますので、7割は交付税で返ってくるという仕掛けになっているわけであります。ですから、そういった有利な財政支援を活用しながら、しっかりと維持をさせていく。

それと、この起債を充当する事業につきましては、今我々が生活しているこの地域、生活をしているわけでありますけれども、我々が受け取る行政サービス、さらにはこれからどんどん、どんどん成長していく世代、また今まだ命としてはありませんけれども、これから生まれてくる世代、彼らもこの地域における行政サービスは継続して受けていくわけでありますから、それをトータルで総合力でそれをつくり上げていく、これが行政サービスの起債を使ったあり方だろうというふうには私は思っておりますので、そこをしっかりと見きわめながら行く。ただ、とは言いながら、限られた財政であります。今回も市税も含めて減少する中であって、当然それは出口入り口の議論になるわけでありますから、それはしっかりと見据えた形でやっていく。それが、今私どもがしっかりと中心に据えて進めている財政計画だというふうには理解をしております。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） ありがとうございます。

過疎債を今回はスケートパークに充用したということですが、財政課長、この過疎債は年間にどのくらいの使用ができるものなのか、その辺のところは、例えば村上だったらスケートパークが十何億円ですか、が過疎債充用されるということなのですが、これからもこういう大型事業が入ってきた場合、全部のものがその対応になるのか、その辺のところはどんな感じに見ておりま

すか。

○議長（三田敏秋君） 財政課長。

○財政課長（田邊 覚君） 過疎債は、枠というのがありませんが、全国の中で、その時のその年度の各自治体の事業に応じて国が配分することになっておりまして、こちらでは前年度並み、あるいはそれ以上の要求はしますけれども、それに対して、それが100%認められるかどうかというのは、その年度ごとの全国状況によって変わってきますので、ちょっと何とも申し上げることはできませんが、私どもといたしましては、これまでの年度と同じような金額を見込んで予算を立ててございます。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） これからいろいろな事業が予想されますし、また学校統合、いろいろなところでその空き地問題、例えば解体問題、いろいろなことが生じてくるかと思えます。やはりそういうものに対しては、国の助成等はなかなか受けづらいところがあるかと思えます。やはりそういうものがそういうふうなところにも適用されながら、この地域のものがきちっと動いていくような仕組みをつくっていかねばならないのかなと思っておりますし、総務課長、これからそういう大型事業が予想されるようなものというのは、どんなものが予想されますか。

○議長（三田敏秋君） 総務課長。

○総務課長（佐藤憲昭君） 細かな事業名につきましては、何とも言えないところでございますけれども、今議員おっしゃられたように、学校統合があり、その学校の廃校の利用というのがあります。なお、学校については耐震診断の結果、耐震の補強工事を行っておりますので、その学校の利用につきましては庁内の検討会でどういうふうな使い方がよろしいのか、また地元の方々のご要望に応えながら有効な活用をしていきたいというふうに思っております。

今後予想される大きな事業といえますと、例えば橋だったり、道路だったり、公共施設の長寿命化のほうメインになってこようかと思われま。ただ、先ほど市長から申し上げましたが、公共事業、これはやはり減らすことはできないのだろうと。やはり経済を回していかないと市民所得が上がらない、税収が下がる一方だということがありますので、やはりそういった個人所得をふやす、経済を回すというふうなことを念頭に考えていかねばならないのかなというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） 本当に今地域経済は低迷しておりますし、中からやはり自分らが盛り上げていく、そういう事業も展開しなければ、なかなかこの地域が盛り上がっていかないという事情もありますので、その辺も踏まえて、これから十分な検討をしながら取り組んでいってほしいと思います。

それでは、若干その中の、施政方針の中について入らせていただきたいと思います。施政方針の

2 ページに、医師不足解消についての昨年度から創設した村上市医学生就学資金貸与制度がありません、創設されました。今回3,360万円ですか、予算がついているようですが、この制度についてはどのような今状況になっているのかお聞かせ願いたいです。

○議長（三田敏秋君） 保健医療課長。

○保健医療課長（信田和子君） 村上市医学生就学資金貸与制度について、取り組み状況も含めてご説明させていただきます。

昨年の第2回定例会において議決をいただきました後、速やかにパンフレットの作成に取りかかりまして、8月には本市の希望や思いが伝わるようなパンフレットと応募要領が完成いたしました。パンフレットまで作成している市町村は少ないと聞いております。完成したパンフレットは、議員の皆様方にもお配りさせていただいたところです。また、村上保健所、村上市・岩船郡医師会にも持参して、制度設計までの過程で大変お世話になったお礼と、今後の周知についてお願いをいたしてまいりました。9月1日の市報及びホームページで新制度の周知を図るとともに、9月上旬までの間にパンフレット、応募要領を各支所に配置しながら、市内の村上高等学校、村上桜ヶ丘高校、村上中等教育学校の進路指導の先生に直接手渡しをしながら、制度の説明や募集についてお願いをいたしました。加えて指定病院としております市内7病院へもパンフレット等を持参し、制度周知とあわせ、将来医学生が指定病院に勤務した際、本市及び地域医療の魅力を十分に伝えていただくようお願いしてまいりました。そのほか市外の進学校及び新潟大学医学部へは、パンフレット等の郵送にて周知を図っております。その後、11月には坂町病院活性化協議会の要望活動の際に、パンフレット等を持参し、県の医師、看護師確保対策化や新大医局等へ本市制度の周知と医師確保等についてお願いをしてまいりました。

さらに、教育委員会にお願いし、小・中学校校長会にパンフレットの配付と、制度説明の時間をいただき、生徒指導の先生や保護者へ将来に向けた早目の進路指導の一つとして、ぜひ周知活用していただくようお願いしてまいりました。

なお、平成30年度の募集は、応募期間が平成29年12月11日から本年2月28日までとなっておりますので、11月1日の市報及びホームページで募集期間の周知を図っております。12月にはフェイスブックにも掲載したほか、他課を通じて新潟市市町村情報誌にも掲載してもらいました。

また、今後は県教育長で作成する平成30年4月版の奨学金ガイドにも、教育委員会の奨学金とあわせ掲載をお願いしているところでございます。

このように、さまざまに手を尽くして周知に努めてまいりました。

現在の応募の状況は、応募者はまだおりません。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） 大変詳しくありがとうございます。

ぜひ応募がなされて、そういう学生があらわれることをお祈りしているところでございます。

それでは次に、その下に子育て環境の充実についてということで、統合する山北にじいる保育園の改修工事が実施されますが、その内容を少しお聞かせ願いたいです。

○議長（三田敏秋君） 福祉課長。

○福祉課長（加藤良成君） それでは、主なものをご説明したいと思います。

現在子育て支援センターが併設されているわけですが、その子育て支援センターを2歳児の部屋にして、少し増築をいたします。それから、現在1歳児の部屋があるわけですが、今後のゼロ歳児の入園を見込みまして、その部屋をゼロ歳児の部屋にいたします。あとそれから、トイレの改修もございまして、エアコン等の室外機が非常に老朽化しているというようなことがありまして、それらの取りかえがございまして、それから、なかなか子どもたちもふえますので、教材室が狭い、足りないということがございまして、教材室の増築なども行う予定にしております。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） あそこはたしか課長、床暖房になっていたと思うのですが、あそこは全部床暖房になっていましたでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 福祉課長。

○福祉課長（加藤良成君） 遊戯室、廊下、それから各部屋とかあるわけですが、全部がなっているかどうか、私もちょっと確認しておりませんので、申しわけございません。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） 暖房施設も今改修するということですので、その辺のところも含めまして、子どもたちが寒くならないような施設にしていかなければならないと思いますし、それとその他の遊戯場もあろうかと思いますが、あの広さは、今合併して大人数になっても大丈夫な広さでありますか、広くするような計画はないのですか。

○議長（三田敏秋君） 福祉課長。

○福祉課長（加藤良成君） ごらんのとおり、現在でも結構広い面積がございまして、ですので広げるとか、そういったことは今のところは考えておりません。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） ご苦労さまです。

ことし入園される募集が締め切ったと思われませんが、ことしは全員入所されるようなものになっておりますか。

○議長（三田敏秋君） 福祉課長。

○福祉課長（加藤良成君） 現在2次募集というのでしょうか、昨年未までの入所の申し込みにつきましては、今月の10日ぐらいに皆さんにお出しました。そういった中で、さまざま入園調整を図りまして、また中にはうちで見るといのでしょうか、そういった方々も出てきましたりしておりまして、何とか皆さんには入っていただけるといような今現状でございます。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） 保育士の確保も大丈夫でしょうか。

○議長（三田敏秋君） 福祉課長。

○福祉課長（加藤良成君） 保育士の確保につきましては、さまざま予定していた人が辞退するとかというようなこともありまして、非常に苦慮している最中でございますが、そういったことも含めて、現在何とかできるような人員の配置はしたいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） 全員が入所されるように期待しておりますし、そのようになるようお願いしたいと思います。

それでは、4ページの「市内のごみ収集回数の統一化に向けた取り組み」と書いてあるようですが、その内容についてご説明願いたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 環境課長。

○環境課長（中山 明君） ごみ収集回数の統一の件でございますけれども、これにつきましては合併後統一されていない形で現在に至っておるところでございます。地域による不公平感が出ているところがあります。その辺の解消とか、ごみの減量化、リサイクルの推進を進めるために、資源ごみの収集回数をふやしていきたいというようなことで現在取り組んでいるところでございまして、現在ごみ収集事業者との協議を再三重ねまして、ごみ収集回数の統一案を作成いたしました。この統一案でございますけれども、村上地域の瓶、缶の収集を休日収集から平日の全てのステーションでやるような統一案にしておりますので、村上地域としてかなり大幅に変更になるものでございますので、村上地域の区長会のほうに示させていただきまして、この新たな収集案をご説明させていただいたところでございます。それで、現在平成30年度にその新しい収集案で実証実験をしていただける町内を募集している、そんなところでございます。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） 回数の統一化ということは、例えば今現在、週に2回のところと3回のあるところがあると。それを同じ回数にするというふうな取り組みをしているということでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 環境課長。

○環境課長（中山 明君） 燃えるごみにつきましては、基本的には週2回で市内全域やっているのですが、旧村上地区につきましては、夏場の部分数カ月につきましては、週3回というような変則的な収集をやっているところでございます。これにつきましても、市内統一の形の収集案、週2回に案を示しまして、今説明に当たっているというところでございます。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） 地域によっては、例えば集落が何軒しかない、何百軒あるというところでは、やっぱりごみが出る量も違うわけですが、その辺のところはどのような仕組みで考えているのでし

ようか。

○議長（三田敏秋君） 環境課長。

○環境課長（中山 明君） あくまで市内統一ということで、回数については統一の案を示しているところでございます。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） ということは、今まで3回行っていたところも2回にしても、その量は2回でおさまるといふような捉え方でそういう統一化を目指しているわけですか。

○議長（三田敏秋君） 環境課長。

○環境課長（中山 明君） 全国的に見ますと、約9割の自治体で週2回の燃やすごみの回数になっているところでございます。これは、リサイクルが進んでいるという状況もありますので、その分をリサイクルのほうに回数をふやしまして、週2回の形で統一させていただきたいというふうに考えております。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） その辺のところを、その住民と収集を決定して、理解のいくような形で進めていっていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、5ページの日本海沿岸東北自動車道朝日温海道路の整備について、市長も精力的に要望活動をしながらいま展開しております。前回も国土交通省の政務官が来られて、現場を見ながらお願いしておりました。今まだ、1,900億円の事業でしたから、1,500億円以上の事業があろうかと思っております。今回今年度の大体の概算の見積もり、どのくらいの予想を立てておりますか。

○議長（三田敏秋君） 建設課長。

○建設課長（中村則彦君） 事業の進捗状況というようなことで捉えてよろしいでしょうか。全体事業費からしてみますと、1,900億円というふうな事業費が計上されておるわけでございますが、その中で今年度事業につきましては、新潟県側でございますが、40億円の予算が計上されております。さらに、今回の国の補正予算が入りまして、4億5,000万円がプラスされております。このような状況で事業費が推移してございますが、これは新潟と山形も含めてでございますが、事業化からこれまで平成29年度まで、120億円の予算が配分されているというふうなことでございます。予算的にはそのような状況でございます。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） 120億円、平成29年度までは予算が投じられたということでございます。ですから、今平成30年度に対してはどのくらいの規模を課長は見ておられるのか。

○議長（三田敏秋君） 建設課長。

○建設課長（中村則彦君） 平成30年度の国の予算につきましては、国のほうで総額についてはある程度、今予算審議されておりますので把握してございますが、個々朝日温海道路にどの程度配分さ

れるかというようなところまでは、まだ私どものほう情報として国のほうからいただいております。したがって、今のところは平成30年度予算というのは把握していないわけですが、過去の例からしますと、事業予算は段々ふえていく傾向にあります。私どもも平成30年度予算は今までよりも大幅にふえることを期待しているところでございます。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） 県のほうでも、国の予算が100億円くらい来ても県のつけ足しができるような準備はしているということをお聞きしましたので、市長またこれからも精力的に要望活動して、この道路が早く着工できるように、完成できるように応援をして、要望活動をしていかなければならないと思いますが、その辺について市長の考えをお聞きいたします。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 今ほど建設課長からご答弁申し上げましたとおり、高速道路の事業、トータルでの進捗から見ますと、設計から始まりまして、地元協議、それから用地取得という形で、比較的事業規模としては小さい形で動いていきながら、実際昨年9月にトンネルに着工いたしました。これからあの路線はトンネルと橋梁、トンネルだけでも13本あるわけでありまして、それを通していくということになりますから、当然事業費は1回着手した部分については大きくなっていくということも聞いております。今までの経験則からいきましてもそうであります。先日も別件で知事にお会いしたときも、知事のほうでもしっかりとこの日東道をつないでいくための取り組みは県としても進めるということをはっきりご明言いただいておりますので、私もそのことを踏まえてしっかりと今後国に対しても、その地元の意向をしっかりと伝えていく。その地元の熱い思いがしっかりと届くと、今残念ながら、それこそ国土交通省の投資的経費事業のうちの、やはり老朽化、長寿命化にシフトしている関係から、新規改良路線についてはなかなか予算の規模は若干小さくなってきているというような現実もあるわけでありまして、そこから何とかして抜いてくるという作業になりますので、これは精力的に取り組みを進めなければだめだなというふうに思っておりますので、今まで以上に力を込めて取り組んでまいりたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） 何とか10年以内で通るように、やっぱり市長が現役で完成式をできるような意気込みでやってほしいと思いますが、市長どう思いますか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 現役でというのは、これは有権者の皆様がお決めになることでありますので、ただ事業の完成をイメージするスケジュール感としては、これまでも国土交通省、また関係する国会議員の先生方のほうからも、やはり事業本格着手後、一つの区切りとして10年だというふうに思っております。ただ、進捗をしていきますので、できれば私どもとしては、でき上がったところからどんどん、どんどん供用開始をしていって、やっぱり地域の活性化をしっかりとインフラ側から

も盛り上げようというふうな取り組みもあわせて訴えをしていきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） よろしく願います。

それでは、生活交通確保の充実について若干お聞きいたします。高速のりあいタクシーの運行の継続と運行時間の見直しにより利便性を図ると言っておりますが、具体的にどのような形で取り組むのかお聞きしたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（川崎光一君） ご説明申し上げます。

こちらのほう、昨年8月に利用者のアンケート調査を実施いたしました。その中で、いわゆる60歳以上の高齢者がやはり利用が8割を占めておりました。それから、利用目的では、やはり通院が76.8%、それからいろいろ今回の運行時刻等の内容についてアンケートしましたところ、時間のほうがもう少し遅ければいいなという要望が多かったものですから、始発のほうを30分ほどおくらせて時刻のほうを組み直しまして、より利便性の向上を図っております。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） 利用者については、どのくらいの運用をしておりますか。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（川崎光一君） 昨年4月3日から運行開始いたしまして、4月は53名利用がございました。それから徐々にふえまして、11月には100名を超しまして、現在1月の集計では112名の利用がございました。累計が794名でございますので、一月平均しまして79名。

それから、参考までに運行日数が177日ございましたので、1日当たりの利用者が4.5人。それから、373本今まで走っております。1便当たりの利用者が2.1人という状況でございます。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） 満杯で乗られないということはなかったのですか。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（川崎光一君） 今のところそういったお話は聞いておりません。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） 利用があることは大変喜ばしいことですので、大いに活用していただくように、またこれからもPRしながら努めていっていただきたいと思っております。

次に、村上駅周辺まちづくり事業の推進について、村上総合病院の移転に伴い、その周辺の道路アクセスを今やっているわけですが、駅の橋上化についてはどのような状況になっておりますか。

○議長（三田敏秋君） 都市計画課長。

○都市計画課長（東海林則雄君） 駅の橋上化につきましては、今事業手法等、国、県と協議しながら

ら、今後財政状況を見ながら進めていくというようなことで考えております。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） 市長、やはりこれも必要な箇所だと思いますが、この手法等、今いろいろ考えてはいるということですが、市長はどのような策略と言えいいか、やり方が一番いいのかなというふうな考えはないものですか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 駅周辺まちづくり構想も既に上がっているわけでありましてけれども、実態側から行きますと、東側、西側ということで、軌道、線路を挟んで両側、これがしっかりとトータルでコーディネートされていくというのが必要なだろうと思いますし、また非常に大きな西側のファクトとしては、病院が行くことになるわけでありまして、やはり人口集積地と、その病院とのアクセスをしっかりと確保していくということが必要だろうというふうに思っています。先ほどの公共交通の話にも通ずるところでありますけれども、やはりこれからこういった形で通院側の足を確保していくのかという問題もあるわけでありまして。また、西側には背後地に温泉もあります。それこそスケートパークもできるわけでありまして、そういった形で考えたときに、やっぱり橋上化駅というのは、これは必要なのかなというふうには思っています。ただ、先ほど冒頭財政計画の中で申し上げましたとおり、あればいいけれども、できることと、何としてでもこれはつくり上げていかなければならないものという、そういう選択、やはり優先順位とその選択をしっかりとする必要がありますので、もう少し私自身としては自分の気持ちの中もしっかり見詰めた上で、この事業には向き合いたいなというふうに今率直に思っております。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） 何とかかなうようによろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、6ページの森林環境税について若干触れさせていただきたいと思ひます。我が市が会長でありました森林環境税創設、25年間の運動の末、ようやく平成31年度から譲与税として市町村に配付されるというところまでできました。平成36年度から住民税として国民ひとしく1,000円ずついただく。森林整備については平成31年度からその譲与を、借金をして200億円ずつ3年間、300億円ずつ2年間借金をして、その地方税が取れないまでも、市町村に配分して森林整備に当たっていただきたいという仕組みを今構想しております。その中で、その税をする前に、新たな森林管理制度というのをことし今の国会で成立するような運びになっております。その仕組みというのは、今まで森林整備に対して所有者、境界、そういうさまざまなことがなかなか個人ではできなかったところが、これからはそれを不在地主、または境界がわからないところを市がかわりになってできる仕組みの制度を今国ではつくろうとしております。そういう整備をして、平成31年度に譲与税として市町村に配分するという仕組みだそうです。

その配分内容としましては、県が20%、町村が80%、これが平成36年度まで。ですから、当初平

成31年の200億円のうち、町村分が160億円、その160億円の配分が、森林所有面積が50%、林業従事者が20%、人口割が30%というふうな形で配分されるそうです。その中でも我が市のように、森林の面積が85%以上のところは、そのパーセントの1.5倍を掛けてくれるというような仕組みもつくっておるそうです。この前林野庁に行ったときに、例えば村上市にはどのくらい来るのだというふうなところも選定しているというようなこともお聞きしましたが、その辺については、まだこの辺市町村には来ていないわけでしょうか、その辺はわかりませんか。

○議長（三田敏秋君） 農林水産課長。

○農林水産課長（山田義則君） 今現在、譲与税の部分につきましては、そういった情報は来ておりません。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） このような仕組みで、平成33年度までは200億円、平成36年度までは300億円のうち、240億円が市町村に配分されると。そして、平成37年度から平成40年度までは400億円ずつとなりまして、それ平成36年度からは住民税で取るのですが、借金分を200億円ずつ返していくという形で、平成40年度までは400億円ずつ、平成41年度から平成44年度までは500億円で、100億円ずつ返済。返済が終わるのが平成44年度、平成45年度からは全額600億円のうち、今度そのときになると県が10%、市町村が90%の配分になり、市町村に来るのが540億円となるそうでございます。そうになると、今まで我々が森林整備に使っていた事業よりも多額の事業費が予想されます。その前に林野庁では、この森林環境税を整備する前に〔質問終了時間10分前の予告ブザーあり〕林地台帳、また境界がわからない境界を整備するために500億円の予算をつけ、それを県に配分しているところでございますが、その林地台帳の整備について、市でもうたわれておりますが、その辺の整備についてはどの辺まで取り組まれておるかお聞きいたします。

○議長（三田敏秋君） 農林水産課長。

○農林水産課長（山田義則君） 林地台帳の整備につきましては、本年の3月中にまず作業を終了させていただくことにしております。その中身につきましては、いわゆる登記簿上の所有者、そして現の所有者、そして境界に係る実施の状況、あと森林経営計画の状況等、それらを一括システムで見られるというような状況で作り込みはいたしますが、何せ情報をどう境界の所有者とかを確実なものにしていくかという作業が今後発生してくるということでございます。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） 森林簿というのは、市町村にも各森林組合にもあるそうなのですが、それをもとにしても林地台帳というのは作成というのは困難なものなのですか。

○議長（三田敏秋君） 農林水産課長。

○農林水産課長（山田義則君） 森林簿以外にもさまざまな、例えば公的な機能に関する部分とか、さまざまなもの、情報を入れることとなりますので、森林簿だけ、またはほかの情報ということで

組み合わせていくようなシステムになっております。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） この事業説明の中で、森林整備活性活動支援交付金の内訳がありますが、その中には森林境界の明確化を明言されておりますが、この辺のところを少し詳しく説明願いたいのですが。

○議長（三田敏秋君） 農林水産課長。

○農林水産課長（山田義則君） 森林境界の明確化といえますのは、いわゆる地籍調査して、ここからここまではっきりしているという部分ではなくて、いわゆるある程度の余裕幅といえますか、どこからどこまで施業していったらいいかというようなことを、集約と計画のつくり込みというような部分で進めていく制度でございます。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） この中に経営委託型が3万8,000円とか、森林境界の明確化は1万6,000円とか、共同計画型は8,000円とか、いろいろその金額が出ておりますが、これはどういうふうな形で、誰にどういうふうなことでできるのでしょうか。これ主要事業説明書の中にありますけれども、17ページ。

○議長（三田敏秋君） 農林水産課長。

○農林水産課長（山田義則君） いわゆる今議員ご指摘の森林整備地域活動支援交付金事業につきましては、その森林の情報の収集、そして調査、合意活動、これらいわゆる共同で計画するのかとか、そういった、どのようにしてその境界を持って施業計画をしていくのかというような段階的なものがございますので、それに基づいてこのように3万8,000円とかということに、国の制度として決められて、メニューで決められているものでございます。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） ですから、メニューで決められている、これは例えば一般の業者がこれに基づいてできるのか、森林組合でなければできないのか、その辺については。

○議長（三田敏秋君） 農林水産課長。

○農林水産課長（山田義則君） 森林組合でも事業体でも可能でございます。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） 今市で事業体を持っている林業施業者であればできるということでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 農林水産課長。

○農林水産課長（山田義則君） またさまざまな細かい部分がありますけれども、市内の事業体であれば可能ということでございます。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） 市長、〔質問終了時間5分前の予告ブザーあり〕森林環境税創設、市長も大

分長年携わってきて、ようやくこれが日の目が当たります。やはりこれが来ることによって、村上市の第1次産業がやっぱりこれから盛り上げていくような仕組みづくりも必要だと思いますし、うちの会派の中で一般質問にもあす質問されておりますが、雇用体制についてもこれから十分必要だと思います。森林整備には、木を切って使用して、それをまた植えていくという作業があります。今の体制では、今以上の森林整備は無理かと思えます。これ以上の森林整備をするには、やはり担い手、作業班、いろいろな雇用が必要だと思いますが、その辺の雇用体制、これからどのように克服していくのか、その辺のところはどう考えておりますか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） まずもって、このたびの森林環境税、平成31年度から森林環境譲与税ということで、仮称ではございますけれども、見事に税制度として構築をされました。村上市議会の板垣一徳議員が会長を務めていらっしゃる全国の議員連盟のお取り組み、四半世紀にわたって続けてこられました、これがいよいよ税制として構築をされる、心より敬意を表したいというふうに思っておりますし、またそういった意味におきましては、全国の基礎自治体であります市町村にとりましても、これは大いなるやはり慶事だというふうに思っておりますので、感謝申し上げたいというふうに思っております。

その中で、今ほど制度につきましてご披露いただいたわけでありまして、その制度につきましても、私促進連盟のほうにも加入しているものですから、これまで訴えてきたもの、これを国のほうでもしっかりとお認めをいただきながら、基礎自治体が自由に、その地域に即した形での事業に取り組むことができるというような制度設計におおむねなっているのだらうというふうに思っております。これにつきましては、川上から川下、また中山間地、都市部も含めて、国全体として、国民全てがひとしくこの森林、この資源を資産として活用していこうということにもつながるわけでありまして。

今ほど担い手の部分について、今後どうしていくのかというお話があったわけでありまして、まずこの産業がしっかりと稼げる産業にならなければだめです、これは。私山元に聞きますと、やはり出しても赤字で出すわけにはいかないと。大切に育ててきた、今の適齢期に来ているのですけれども、長伐期でも売ることができるというような今の市場構造もありますので、なかなか切りにくい。それは、やはりそれでもうけられないからだというふうに思っております。ですから、そのもうけられる仕組みをあわせて構築をしていって、そうすれば元気に、力が出てきた産業には担い手もやっぱり集約をしていくと。この相乗効果をしっかりと市場でつくり上げていく。ですから、これは川上から川中、川下、トータルでサプライチェーンというような形になるのでしょうか、そういう形になると思います。

私ども行政としては、しっかりと公共事業の中にその材を使っていくという仕組み、これをこれまでも就任後取り組んでまいりました。今回のスケートパークにつきましても多くの市産材を活用

させていただきたいというふうに思っております。これらを総合的にコーディネートしていくことによって、今議員ご指摘の部分というものにつきましては克服をしていけるのだろうなというふうに思っております。しっかり取り組んでまいりたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 大滝国吉君。

○22番（大滝国吉君） ありがとうございます。我々が長年運動してきたことが、これ実現しましたので、これが本当にこの地でうまく活用し、この地域が盛り上がっていくような、そんな仕組みづくりをぜひしていただきたいと、このように考えておりますので、市長よろしくお願いいたします。

これもちまして私の代表質問を終わります。（拍手）

○議長（三田敏秋君） これで鷲ヶ巣会の代表質問を終わります。

午前11時10分まで休憩といたします。

午前10時54分 休憩

午前11時09分 開議

○議長（三田敏秋君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

○議長（三田敏秋君） 休憩前に引き続き、次に、新政村上の代表質問を許します。

19番、長谷川孝君。（拍手）

○19番（長谷川 孝君） おはようございます。新政村上を代表いたしまして、代表質問を行います。施政方針を中心に伺わせていただきますので、よろしくお願いいたします。

まず最初に、やはり一番気になるのが人口減少で、いろいろな施策をやらなければだめだということはもちろん理解はしているのですけれども、財政的にどのような今後形になるのかということをやっと具体的に教えていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

現在、基金積立金の現在高というのは、財政調整基金とか、それから村上総合病院の積み立てとか、そういうようなものを含めまして、現在は金額的にどのぐらいになっているのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 財政課長。

○財政課長（田邊 覚君） ただいま基金、11基金ございまして、総額で、これは12月の末現在でございますけれども、96億131万円少々ということになっております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 大体平成27年ぐらいで100億円近くになって、それから大体同じような形で推移しているわけです。そこから村上総合病院の積み立てというのは、今年度中か何か病院側のほうに渡すということになるのではないかというふうに思っているのですが、そうしますと大体7億円というふうに理解していいのですか。

○議長（三田敏秋君） 財政課長。

○財政課長（田邊 覚君） 村上総合病院の支援分の取り崩しを含めまして、今回の平成30年度予算にも計上してございますけれども、最終的に平成30年度の末では75億円少々になるというふうに想定しております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 全体で75億円ぐらいになるということで理解していいわけですね。

それで、私もいろいろ調べてみたのですけれども、実際合併の当時、平成20年度当初、これは財政調整基金がたしか14億円ぐらいで非常に少ないということで、前々財政課長が基金をふやすということと、借金を減らそうではないかということで非常に一生懸命にやったという結果、平成22年度に財政調整基金が32億円ばかり、そしてそのまま平成26年まで続いたのです。それで市債、つまり借金の地方債についても、現在はこの平成30年度の予算ですと45億5,000万円ぐらいなのだけれども、実際平成23年度の決算時には16億円と、非常に一時は減った時期がありました。それで、その当時、平成23年度の基金積立と市債を引いた額ですと、大体60億円ぐらい。それ現在ですと、大体その差が30億円と半分ぐらいになっているのですが、それは市長が人口減少とかいろいろな形で、いつかは施策を集中的にやらなければだめだというのがいつなのかと言ったら、今でしょうということで集中的にやり始めたということは理解しているのですが、その成果がもちろんなければだめなのですが、その辺の市長の思いというのは、今の財政的な部分も含めまして、現在もその考え、つまり人口減少と、それから投資的経費もかさむけれども、これから村上市にはこういうふうにしなればだめなのだという、そういう覚悟のほどをちょっと示していただきたいというふうに思います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 合併後10年を経過する中で、いろいろな財政的な考え方、またその都度、都度の年度における財政の考え方、財政の考え方といいますか、行政運営の今やらなければならないことというものの考え方に基づいた予算決算で、今推移してきていると思います。常に申し上げているのですけれども、行政というのはやっぱり継続をさせなければならない。さらには、その継続をさせる中で、さらに行政サービスを向上させる、今の市民の皆さんの課題に向かって、それを解決する仕組みをつくり上げていかなければならないという役割も担っているのだらうと思っております。その結果、優先順位の高いものから、また効果的なものからということで、これまで行政運営に当たってきたというつもりでいます。

それで、基金の部分なのでありますけれども、基金抱いていても、やはりそれは事業効果生みません。ですから、今やらなければならないところにしっかり投資をしていく、また投入をしていく、これが財政出動だと思っておりますので、そういう使い方をする。体力があって、それを構築できる、ためられるときにはやっぱりためておく、準備をするということ、これのやっぱり緩急をつけながらやっていくということが必要だらうと思っております。今総合戦略、人口減少する社会の中

にありますけれども、これはある程度のところで歯どめをかけながら、今後の50年後、100年後の村上市の行政運営を考えたときに、どのくらいの規模でやるかということを見通しを立てながら、いろいろな施策に総合戦略として取り組みました。それが一つ一つ非常に大きな効果を生み出しつつあるのではないかなというのが率直な感じとして受けとめていますので、さらにそこを少しボリュームアップしていくという思いで今回の予算編成に当たったというのが、率直な私の今の気持ちであります。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 決して私、財政的に今のやり方というのを批判しているわけではないのです。ですけれども、一時はやっぱり相馬エイさんみたいに、ような方の議員さんがいられば、やはり財政的にもきちんと把握した中でいろいろな質問等するのだろうけれども、今ちょっとその部分、財政的な面でお話する機会がないもので、もう少しちょっとさせていただきたいというふうに思います。というのは、先ほどから合併算定外の時期が平成34年以降、普通交付税の本来の姿に戻るから、一応村上市も合併特例債措置の低減対策準備基金というのをつくってやり始めたのが平成24年からだと思うのですが、これはやはりそういうふうなものに備えて、きちんと基金として積んでおこうというふうな形で始めたと思うのですが、それは今現在幾らになっているのか。

○議長（三田敏秋君） 財政課長。

○財政課長（田邊 覚君） 現在20億円少々という形になってございます。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） では、平成27年度、20億700万円と変わらないと、それからもうふえていないというふうに理解していいですか。

○議長（三田敏秋君） 財政課長。

○財政課長（田邊 覚君） ただいま利率が非常に低うございますので、変わらない金額だと考えていただいて結構でございます。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 財政課長に聞きたいのですが、老朽化とかで万が一お金が要するというふうになったときに、取り崩せるというのは財政調整基金と、今の基金、今言った合併の普通交付税に戻る、従来の普通交付税に戻る前の基金として、そのためにおいた部分というのを活用するというふうに考えていいわけですか。ほかの部分については目的的な部分の基金が多いので、この2つは使えるというふうに理解していいでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 財政課長。

○財政課長（田邊 覚君） そのとおりでございます。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） わかりました。

次に、先ほども話がありましたけれども、医学生の就学資金貸与制度、これについてなのですが、今まで実績がないということで、問い合わせは市長は二、三あったという話をしてくれたのですが、そういう問い合わせもなかったのですか。

○議長（三田敏秋君） 保健医療課長。

○保健医療課長（信田和子君） 私どものほうの課で直接問い合わせがあったのは1件でございました。ですが、その問い合わせの対象者は来年度の応募対象者でございました。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 例えば自治医大の先生とかと話、自治医大からお医者さんになった人とかの話の聞くと、やっぱり上下関係があるのだと、医師は。できれば先輩のところに行って研修したいとか、そういうつながりがあるのだということです。だから、そういうふうに考えた場合に、今の方法、パンフレットをいろいろなところに配ったりするのもいいのだけれども、村上市と今までにかかわっていて、自治医大を卒業して東京あたりに医師として活躍しているとか、そういう人もいっぱいいるはずなのです。そういう人に対してのアクションとかというのはとる必要があるのではないかというふうに思っているのですけれども、いかがでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 保健医療課長。

○保健医療課長（信田和子君） なかなかその情報というものが個人情報なもので、把握できない状況でございますし、前回の議会のほうの答弁でお話ししたとおり、その他の要因がたくさんあるというところがありましたので、まずうちの制度について周知を図ってまいりたいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） もし何かそういうような機会があったら幾らでも協力します、はっきり言って。知っている医師だっているのだ、東京で。ということは、今回も村上総合病院でいろいろな問題が起きたときに、その現場の医師が誰に相談したかということ、やっぱりつながりで自治医大のほうの一番上に行って、東京の先輩のところの話が来ているということで、村上総合病院で起きたことがちゃんと東京の先輩のお医者さんが知っているのだ、それぐらいやっぱり上下関係というのはつながりがあるので、もう少しやり方を考えればいいのではないかなというふうに思うのですが、市長いかがでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 医学生に特化をいたしました就学支援事業であります。その中で、今医師の数もちょうど新潟県の制度としての地域枠についても、ようやく今各病院に出ていくという時代になりました、ようやくだと思います。今後どんどん、どんどんふえていくことを期待しながら、この制度そのものの周知というのは、やはり村上に愛着を抱いていただいて、村上のために医療に従事をして、その貢献をしたいという方々の、若い世代にいっぱいそういう思いがあるので、そのところはしっかり財政側で応援をしようという制度であります。

今議員がご披露いただきました、医学会のその状況、当然そういうものもあるのだろうというふうに思っております。私もドクターと話をしますと、やはり先輩、後輩の固いきずなの中で技術もアップしていくというようなことがあるものですから、その辺のところも含めて、トータルでこの制度がしっかりと運用をして、果実を生むというのですか、そういうふうな形で村上の医療資源としてつながるような仕組み、これにつきましては今後もしっかりと議会の皆様方とも議論させていただきたいというふうに思っております。そういうものがありましたら、どんどん私どもにご指導いただければありがたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） わかりました。

次に、保育士のほうの確保、先ほどもこの話出ましたけれども、保育士の確保、保育士の確保と、施政方針で去年もこれ上がっているのですけれども、具体的に、例えば平成30年度はどういうふうにして保育士を確保しようという、そういう考え方というのはあるのでしょうか、教えてください。

○議長（三田敏秋君） 福祉課長。

○福祉課長（加藤良成君） 今までやっていたのに加えて、先般の議会でもお話ありましたように人材バンクとか、そういったご提案もありましたし、あとうちのほうで保育士の実習生からアンケートをとった部分もありますので、そういった部分でこういったことが保育士に、ここに来てもらうというようなのもいろいろ勘案しながら、それらを進めていきたいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） よろしくお願ひします。

もう一つ、福祉課がやっていると思うのですけれども、3ページの生活保護世帯を含む生活困窮者の小・中学生を対象とする訪問型の学習支援、昨年度436世帯、実施しようとする支援者数が436世帯あったということで、平成29年度は実績どのくらいあるのですか。

○議長（三田敏秋君） 福祉課長。

○福祉課長（加藤良成君） 生活困窮者の学習支援でございますが、今現在2世帯、4人の方にこの事業を実施しております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 2世帯ということは、436世帯のうちの2世帯なわけですね。この通知の仕方、つまりこういうふうな制度があるから、該当者に対してなかなかこれ学校側からもちろん言いにくいでしょうし、どういう通知の仕方しているのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 福祉課長。

○福祉課長（加藤良成君） 確かに小・中学校に通知をするというのはなかなか今言ったように難しい部分があります。一応現在、うちの課内で家児相とか、そういった相談とかありますし、あるいは児童扶養手当の関係で申請とか来る方がいらっしゃいますので、そういった中で今いろいろPR

とかしていました。それで、今ご指摘のように、なかなかこの制度が周知されていない、皆さん知らないというのがありますので、今後学校等、その辺のところも再度広げていきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 教育長にお聞きしますけれども、例えばこういう、言葉は余りいい言葉ではない、「生活保護」とか「生活困窮者」という、そういうくくりを学校で生徒別にとかということで、こういう学習の支援の仕方あるのだということを生徒さんとか、父兄の皆さんにお知らせするというのはなかなか難しいことではないかと思うのですけれども、どうでしょうか、やり方として。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） なかなか私も校長をしていた時もありますので、難しいと認識しております。ただ、やはりこういう制度があるのだということを、少なくとも校長には認識してもらう必要がありますので、今後市の校長会等で福祉課のほうから説明していただくことを通して、周知に努めていければなと思っております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 私は、貧富の差でもって子どもが将来を悲観するようなことがあってはならないと前々から感じているのです。ですから、2世帯では余りにも施策として少な過ぎるのではないかなと思う、せっかくやり始めたのに。せめて予算に該当するのは7世帯ぐらいになっているのです、実際その平成30年度だと。

○議長（三田敏秋君） 福祉課長。

○福祉課長（加藤良成君） 今年度、平成29年度も一応10世帯ということで見込んでおりましたし、平成30年度につきましても一応10世帯というようなことで見込んでおります。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 10世帯なるべくするように頑張っていたきたいというふうに思います。

次に、その3ページの下の方の洋上風力発電、ほぼ金額的に予算358万8,000円、平成29年度と同じ予算を計上しているのですが、事業者、コンソーシアム10社が、今回もいろいろな地元説明会を開いた後、今後は抜けるという考え方でいいのですか。

○議長（三田敏秋君） 環境課長。

○環境課長（中山 明君） 事業者につきましては、事業予定者ということで今推進委員会の中に入っていております。次の推進委員会の中でその辺の議論をしていただいて、推進委員会からは抜けていただくような形を考えております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） それでこの1年、平成30年度の計画として上げた金額というのは、どうい

うことをやることを前提に予算化したのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 環境課長。

○環境課長（中山 明君） 岩船沖洋上風力ということで、基本的にはやはり全然ぶれていない形になってございます。このたび事業者のほうで、現在の段階では断念するような形にはなりませんでしたけれども、国のほうもようやく洋上風力に関しまして、一般海域での法整備的な部分も進めているというふうには聞いておりますので、今後岩船沖での導入が必ず導入できるものというふうに思っておりますので、その辺を期待しながら平成30年度の推進委員会につきましても、今まで同様に継続していきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） わかりました。よろしくをお願いします。

それと、ちょうど環境課長の答弁だったので、4ページの臭気の件です。去年1年間取り組んでもらいまして、いろいろな形で大分よくなったというふうに岩船地区の方がおっしゃっていますけれども、この1年はまた別な形のやり方とか考えているのでしょうか、どういう形にしようと思っているのか教えていただきたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 環境課長。

○環境課長（中山 明君） おかげさまで各関係各位の養豚の事業者さんとか、県の方のご協力を得まして、今年度実証実験という形でやらせてもらいました。今ほど発言ありましたように、岩船地区のほうでは若干というか、私としてはかなり多く軽減効果があったなというふうには感じておりますし、ただまた別の地区におきましては、余り効果がないというような話も聞いておりました。その辺を含めまして、平成30年度につきましては、平成29年度でやっていただいた事業者さん、継続してミスト散布、水の散布になりますけれども、それを徹底して継続していただいで、周辺地域の測定について若干もう少し箇所数をふやしながら測定をして、その経過を見ていきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） よろしくをお願いします。

次に、6ページの空き家対策のところ、市民課長にお伺いします。昭和45年、1970年には人口が、この合併しない前ですけれども、全部合わせまして8万3,107人ぐらいおられたということで、その時の世帯数が1万9,024件、平成27年は人口が6万2,442人で、世帯数が2万2,138、世帯数にして3,000以上ふえているのです。ですけれども、人口が減っていると。この傾向を考えますと、やはり空き家がふえるというのは当然だというふうに思います。今全市挙げて調査、まだ終わっていないのでしたが、空き家の調査しているというふうに思うのですが、市民課長は優しいからこういうことはないのかもしれないのですけれども、指導、勧告、命令、代執行などの措置ということを考えているような、そういうような空き家というのは何軒かあるものなのでしょうか、教えてく

ださい。

○議長（三田敏秋君） 市民課長。

○市民課長（尾方貞一君） 現在のところ、指導助言ということで、管理する、すべき方といろいろ交渉しながら適正な管理をお願いしているというような段階でありまして、今後例えば管理する人が全然いないような状況が出てきまして、それが周辺に影響を及ぼすというようなことになった場合につきましては、その先も考えていかなければならないかなというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） わかりました。

次に、7ページのインバウンドのことで、ここちょっと聞きたいこといろいろあるのですが、この中で「インターネットの旅行予約サイトと連動し」と書いてあります。インターネットの旅行予約サイトというのはどういう会社等を意味するのか教えてください。

○議長（三田敏秋君） 商工観光課長。

○商工観光課長（竹内和広君） 具体的にはじゃらんさんであります。旅行紹介のサイトでございます。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 楽天とかじゃらんとかというのは、国内的なところですよ。インバウンドというのは国外に向けて発信することでしょう、何でじゃらんさんなのですか。

○議長（三田敏秋君） 商工観光課長。

○商工観光課長（竹内和広君） インターネット予約サイトのみではなくて、SNSのインバウンドといたしまして今やっているのが、外国人記者での情報発信、昨年度は英語、フランス語、平成30年度は英語、フランス語に、今度スペイン語も加えての計画で、旅行記事を外国向けに発信させていただいているというところでございます。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 商工観光課長にお聞きしますが、外国人の観光客が訪日前とか訪日中に、チェックする情報メディアサイトというのが、全世界に19ぐらいあるというのです。その19のうち、例えばジャパンガイドとか、トリップアドバイザーとか、そういうところに対しての何か活用とかというのは考えたことはないのですか。

○議長（三田敏秋君） 商工観光課長。

○商工観光課長（竹内和広君） そういうサイトが、議員おっしゃるように訪日外国人の方が利用されているということは把握しております。具体的に、個別に掲載の条件等について交渉した経緯はございません。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） ぜひともちょっと調べてもらいたいのです。ということは、例えばジャバ

ンガイド、これは毎月およそ180万人のユーザーが訪れている、そのポータルサイトに。そうすると、12カ月だったら2,000万人以上見ているわけです、延べで。そして、日本の旅行情報や生活、それから文化情報などを集約した世界でナンバーワンの訪日外国人向けの日本情報ポータルサイトというのが、このジャパングイドです。それで、私ジャパングイドをいろいろ調べてみたのです、はっきり言って。それで、ここまで予算かけられるのだったら、ある程度こういうところに村上とか新潟県とか、そういうようなのが出てくればいいのだけれども、これ私があれしたのは、日本の地域、地方というのがあるわけです、例えば東北、北海道、中部、それから東京、ところが甲信越というのはない。そのためか知らないけれども、新潟県が一番おくられている、情報のあれが。というのは何でかということ、例えば東北、東京とか京都とかでも三ツ星なのです、丸が3つ。それで、二ツ星というのは東北に2つある、山寺と出羽三山。それで、新潟県はどこに入っているかといったら、中部というところに入っている。これは、富士山というのが3個、あとのところは例えばアルペンとか白神とか上高地とかが2個。新潟県どこに入っているかといったら、佐渡と湯沢だけ。下越はおろか、新潟市なんていうのは全然入っていないのです、ここに。ということを見ると、この前新潟日報さんとかにも載っていましたが、富山県とか神奈川県、あの辺に比べて新潟県がインバウンドで非常におくられていると。せっかく新潟空港がありながら、何でこんなにおくられているかといったら、やっぱりこういうポータル情報サイトとかにアクセスする人が、新潟県というのを余りにも知らな過ぎているのではないかなというふうに私は感想を持ったのです。それで、ぜひとも、せっかくインバウンドでこれから力入れていこうというふうに考えているのだったら、新潟県とももちろん協力し合いながら、この地域をもっときちんと情報発信していかねばだめなのではないかと私は思います。私の感想なのだけれども、商工観光課長どう思いますか。

○議長（三田敏秋君） 商工観光課長。

○商工観光課長（竹内和広君） おっしゃるとおりだと思います。実はあるそういうSNS関係のポータルサイト見たら、「新潟」という文字すらも地名が地図に載っていないというような事態も正直ございました。県のほうの観光部のほうでも、今議員おっしゃっているところが最優先の課題だということで取り組んでまいりますので、議員おっしゃったこういうご提案は非常に有効だと思いますので、私どものほうでちょっと検討させていただきたいというふうに思います。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 市長、こういうような状況なので、新潟県の県知事とか、新潟県に行かれるときには、やはり新潟県全体でももう少しその情報発信をする機会を、こういうようなポータルサイトとかでも活用しながらやっていったほうがいいのではないかと思いますので、村上市だけで一生懸命にやってもだめな面もあります。ですから、県知事とかに会う機会に、そういうようなことでお願いしてみたらどうかと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） これまで取り組んでおります、例えば韓国、台湾でのプロモーションなんか行きますと、やっぱりその状況を聞きますと、新潟ってどこという話があるという、これが率直に今の現状だというふうに思っております。ということは、課題は今議員がご提言されましたように、もう明らかになっているわけでありますから、そこをどういうふうな形で戦略的にクリアしていくかということです。その部分については、県の観光協会も含めて認識は多分共有できていると思いますので、あとはそれを具体的な戦術でどうクリアしていくかということだと思いますので、機会を捉えてしっかりと私からも申し上げていきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） よろしくお願ひします。

次に、9ページの防災士、この前岩船地区で私の知り合いが防災士になったのだと言って、防災士協議会とかもつくるのだとか言っていたのですけれども、何か最初は町内に1人ずつ防災士をつくりたいために、岩船地区で皆さん各町内会から出席して、参加してもらいたいということだったのだけれども、実際なつたのは縦新町の方1人だけで、あとは各町内会来なかつたのだというのですけれども、これはやっぱり考え方としては、町内に1人ぐらい置きたいという考え方で今防災士をふやそうとしているのですか、その辺ちょっと教えてください。

○議長（三田敏秋君） 総務課長。

○総務課長（佐藤憲昭君） 長谷川議員おっしゃるとおり、1町内に1人を必ず置きたいということで始めた制度でございます。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） それ今現在、そういう形で呼びかけて、防災士になつた方はどのぐらいいるのですか。

○議長（三田敏秋君） 総務課長。

○総務課長（佐藤憲昭君） はっきりした数字は把握してございませんが、170名ぐらいだと思います。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） それで、防災士協議会とかという協議会みたいなものつくる予定、もうできているのでしょうか。それで、その協議会でどういうことを目的にこれから進んでいくのか教えてください。

○議長（三田敏秋君） 総務課長。

○総務課長（佐藤憲昭君） 防災士の方、いろいろ一生懸命な方もおいでになりますし、これから勉強していこうという方もおいでになります。いろいろ情報交換をしながらお互いの技術、それから認識を高め、連帯を深めていこうという趣旨でつくる予定でございます。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 次に、その下にあります特殊詐欺、そういうものが非常に村上市でも被害

に遭っている方が多いような気がするのですけれども、実際今やはり一番多いのは、高齢者なのか、それとも、いや、そうではなくて、画像見てすぐ連絡よこさないと何とか何とかで、いろいろ若い人も被害に遭っているかもしれないのですけれども、今の状況はどのような状況になっているのか、どなたか教えてください。

○議長（三田敏秋君） 市民課長。

○市民課長（尾方貞一君） 振込詐欺の状況につきまして、昨年末からことしの初めにかけて、新聞にもいろいろ報道されておりますけれども、ここでは50代、60代の方が被害に遭われております。そして、そういった被害の情報につきましては、市のむらかみ情報ネットで警察から情報をいただいた場合について、即配信をするというようなことをしておりますし、昨年末からことしの初めにかけてちょっと被害が多発しましたものですから、別に被害の状況と申しますか、こんな手口で被害に遭われていますよというようなことをお知らせのチラシを作成しまして、全戸配付をさせていただいたというところでございます。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 市民課長、情報ネットを携帯で受け入れ、受信している人というのは50代、60代よりも、やっぱりもっと若い人が多いのではないかと思います。それで、私も実は岩船地区で3回、この前上海府地区で1回、三流亭楽々さんという方が落語家ですけれども、その方に落語を頼むと、必ずオレオレ詐欺とかの話をしてくれる。それで、一番どういう人がひっかかるかという、私は絶対ひっかからないという人がひっかかるそうなのです。それと、できればもう自分のところの固定電話は留守電にしておいたほうがいいと。出るとやっぱり気が動転して、うちの息子がと必ずなるから、留守電にしておいたほうがいいというふうに、ことしもやるし、来年もその方来てもらってやってもらう予定なのですけれども、高齢者の方が六、七十人集まって聞いてくれるのですけれども、そうすると、去年も言ったのだけれども、やっぱり忘れて〔質問終了時間10分前の予告ブザーあり〕いるというぐらい、自分に関係ないと思っていることがいつの間にかひっかかっているというのが、この詐欺のやり方なのではないかというふうに思いますので、村上市でも三流亭楽々さん、今新潟日報で終わりましたけれども、連載していた方ですけれども、こういう方を呼んで何回か講習会みたいのをやっています。やっぱりやるとやらないでは効き目なのか、ひっかかる方が少なくなると思うのですけれども、そういうような広報活動等に関しては、今現在どのような形で、広報にあれするというようなことのほかに、そういう講習会とかということも含んでやられているのか教えてください。

○議長（三田敏秋君） 市民課長。

○市民課長（尾方貞一君） ただいまお話のありました三流亭楽々さんを講師にお招きしまして、消費者協会の皆さんと共催で講演会のほう開催させていただきました。それから、うちのほうの消費生活センターの相談員が出前講座ということで出向きまして、大きなところではなくて、小さな

集まりの中で、本当に身近な話をしてもらいながら、あれも被害の前兆だったのかねとかというような、そんな話もしながら、そういったことで少人数の中に入ってそういった講座をやっていくと。そういった地道な講座を積み重ねていくことによりまして、被害の防止を図っていきたいというふうなことで活動させていただいております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） やはり一番いいのは、被害を未然に防ぐというのが一番なので、その辺に関して市も一生懸命に頑張っていたいただきたいというふうに思っております。

次に、11ページの地域おこし協力隊に関してなのですが、ここに集落支援員というのも書いてあります、私も集落支援員も含んで、これから村上市の各地域を考えていかなければだめなのではないかというふうに一般質問もしましたけれども、この集落支援員の予算とかというのは、平成30年度に入っていないような気がするのですけれども、将来的に集落支援員を入れるという考え方でいいわけでしょうか、教えてください。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（川崎光一君） 集落支援員につきましては、平成29年度10月から1名導入、既にしております。それで、平成30年度につきましては、さらにもう1名、今のところモデル導入でございますけれども、合わせて2名導入を予定しております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 失礼しました。その集落支援員の、今現在1名おられるという方はどういう、例えば総代さんだったとか、地域の方なのか、地域おこし協力隊というのは全国で公募するわけですが、首都圏に公募するわけなのですか、集落支援員というのは地元のキャリア積んだ人がなれるわけですよね、その1名の方というのはどういう形か。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（川崎光一君） 1名、10月1日に委嘱させていただいた方につきましては、市が行っている協働のまちづくり、平成23年度から始めておりますけれども、その当初から盛んにワークショップやら参加していただきまして、その後ずっとまちづくり協議会の役員を継続的に実施していただきまして、非常に精力的に活動していらっしゃる方で、そういった方を地域のほうでやはり集落支援員として非常に適当だろうということで推薦いただきまして、それでまちづくり協議会の支援も合わせた形で委嘱しております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） わかりました。

それで、集落支援員の雇用等に関する目的というのは幾つかあるのですけれども、それぞれ違うのですか、例えば〔質問終了時間5分前の予告ブザーあり〕どこどこではこういうような形であれする、活用してもらおうのだとかという、そういうふうなやり方あるのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（川崎光一君） 昨年の6月に国のほうで集落支援員の業務につきまして、非常にきちとした内容で、各都道府県、市町村、集落支援員の役割というものを明確化しておりますので、集落点検であるとか、住民との話し合いであるとか、そういった業務は必ずこなしてもらった中で、あとは村上市としてはやはりまちづくり協議会との連携、そういったものの中から地域課題の解決ということを実施していただきたいなということで制度設計しております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 自治振興課長の今言われたのだと、まちづくり協議会の延長でいろいろ尽力してくれた方が今なっているという形が一番いいのではないかというふうなことですよね。私も実は岩船まちづくり協議会をいろいろ側面から見ていると、女性の力が物すごく大きいと思う。女性というのは損得というのよりも、何かみんな楽しければやろうというところから始まるのです。だから、結構私も一緒に旅行に行こうぜと言うと、行くとなれば二、三十人ぱっと集めてくれる。だから、やはり女性の活用も必要なのではないかと思うのですけれども、自治振興課長はどう思いますか。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（川崎光一君） 私も議員おっしゃるとおりではないかと感じております。実は荒川の委嘱した1名の集落支援員の方は女性の方でございまして、非常に精力的に岩船の方と同じような形で活動していただいております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） それで、時間もあれですけれども、最後に総務課長にお聞きします。

昨年度は、平成29年度の施政方針では、平成21年4月に945人の職員がいたのが、実質的に平成28年4月、760人まで削減したのだよというふうに記載していました。今回は行政のスリム化ももちろん大切なだけけれども、やっぱりところどころに職員が必要な部分があるのだということに、私はそう思うのです。それで、現在は実質的にやっぱりふえた中でも、このように努力をしているのだという部分がありましたら教えていただきたいのです。職員が760人よりもふえているならふえているでいいのですけれども、その職員を活用してどういうことをやろうとしているのかも含めて教えていただきたいのですけれども。

○議長（三田敏秋君） 総務課長。

○総務課長（佐藤憲昭君） 定員数につきましては760人を維持するということで、たしか一般質問等でお答えしていると思いますし、職員は若干一、二名はふえておりますが、760人をベースとして考えております。

そこで、どのような仕事に充てているかということなのでございますが、昨今の市民ニーズといましようか、生活様式の多様化といましようか、いろんな市民の要望等につきましては、現在

の各課の、縦割りという私から言うのは変なのですが、各課対応では対応し切れない、そのすきまの要望等が大変多うございます。どの課でやるのかということに迷うような市民サービスがだんだんふえてきているということと、先ほど来から話が出ている少子高齢化、それから人口減少に対応したいろんな施策を行う、それにあわせてフェイストゥフェイス、要するに市民との相対の業務に力を入れていきたいなというふうには考えております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） ありがとうございます。

新政村上の代表質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。（拍手）

○議長（三田敏秋君） これで新政村上の代表質問を終わります。

午後1時まで休憩といたします。

午前11時58分 休憩

午後0時59分 開議

○議長（三田敏秋君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

総務課長の発言

○議長（三田敏秋君） ここで総務課長から発言を求められておりますので、これを許します。

総務課長。

○総務課長（佐藤憲昭君） 先ほど新政村上の長谷川議員様に、防災士170名とお答えしたと思いましたが、正確には職員入れると129名でございます、今現在。申しわけございませんでした。

○議長（三田敏秋君） ご了承願います。

○議長（三田敏秋君） 次に、清流会の代表質問を許します。

16番、川崎健二君。（拍手）

○16番（川崎健二君） ささやかな拍手、ありがとうございます。大変ご苦労さまでございます。清流会の川崎健二でございます。それでは、清流会を代表して私のほうから質問をさせていただきます。

まずは、この冬は近年にない豪雪であり、低温による水道管の破損、除雪、排雪等、行政も警戒本部を設置し、昼夜問わず警戒に当たられたと思いますが、大事に至らなかったことは業者の皆様も含め献身的に努力をいただいたことに、市民の一人として厚く御礼申し上げます。この先も市民の安全安心のためにご努力をお願い申し上げます。

また、さきに行われましたピョンチャン冬季オリンピックのスノーボード、ハーフパイプでの平野歩夢選手の2大会連続の銀メダルという大活躍は村上市の誇りであり、市民に大きな感動を与え

ていただいたことに改めて敬意と感動を申し上げます。

本市も合併から10年、高橋市長も就任から3年目、特に施政方針にもあるように、急速に迫る人口減少対策や、(仮称)村上市スケートパーク建設、荒川地区公民館の建設、また厚生連村上総合病院移転に伴う道路整備補助金の増額等々、市税や地方交付税が下がる中、過去最大の一般会計342億7,000万円の予算を組まれました。予算の概要でも、今までの政策の継続、拡充、そして保育園や学校統合に係る新規事業など大変苦勞されたものと思いますが、平成30年度予算編成に当たっての苦勞した点を、まずお聞かせください。

○議長(三田敏秋君) 市長。

○市長(高橋邦芳君) 先ほど来申し上げさせていただいているところでありますけれども、いずれにしても行政運営そのものというのは、やっぱり継続、これがしっかりとその先を見通した形でそのイメージができるということが非常に大切だなというふうに思っておりますので、一つ一つの施策については、それがどういう効果、また将来的にどういう機能を果たすのかということが見通せるような形で説明してきたつもりであります。

平成30年度予算編成に当たりましては、確かに人口減少する中で、非常に体力が削り取られているというような中であってではありますけれども、その先に見据えた村上市の笑顔あふれる将来、これを見据えた形、これは絶対ぶれてはならないのだろうなという思いで編成させていただいたところであります。その中において、財源の確保、これが非常に重要であります。やはり出口、入り口、これがバランスがとれていてこそその安定感だという思い、これも同時にあるわけありますので、そんなところを苦慮したということでもあります。具体的には正規内削減に取り組むのだということで、経常的な物件費につきましては、できるところ、1回見たところも含めて、さらにそれを削り込んでいくというふうなところまで取り組みを進めさせていただいたところであります。その結果が342億7,000万円という当初予算につながったということでもあります。いずれにしても、厳しい中、しっかりとその成果を上げていける、そういう予算組みをさせていただいたというふうに思っております。

○議長(三田敏秋君) 川崎健二君。

○16番(川崎健二君) 人口減少を最重要課題と捉え、今年度の予算編成にかける思いはいかがでしたか。

○議長(三田敏秋君) 市長。

○市長(高橋邦芳君) これは、全ての施策に相通ずるところがあると思っておりますけれども、この人口減少するというのは、社会構造的に、特に村上市のまちそのものの構造が変化を余儀なくされているという状況であります。これは、出生から一人の人間が最終的にその寿命を全うするまで、全ての分野において行政サービス、また行政はその対応をしているわけありますので、その構造そのものが変化をしていくというのは、非常にこれは大変なことでもあります。しかしながら、そこを

しっかりと状況に合った形できちんと行政サイドの運営、またサービスそのものも変化させていくということが重要だと思っておりますので、これまで少なくともこの合併後10年間中を見ても、いろんな形で時々に変化をしてきたのだろうなというふうに思っております。これが行政運営のベースになっているのかなというふうに感じております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 次年度以降の予算編成における方向性はどのようになるべきか、所見があったらお聞かせ願います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 従来から取り組んでおりますとおり、やはり優先度の高いものにしっかりと対応していくと。この優先度というのは、やはり大きな市民ニーズがあること、また我々がこれまでに積み上げてきましたスキルのもとに検証を加えた結果、これから何が必要かというところ、これが重要なポイントだというふうに思っております。ですから、これまで同様に、しっかりと積極的にそこには取り組んでいきたいというふうに思っております。

ただ、財政の規模といたしましては、それこそたしか300億円超で合併をしたと思えますけれども、一般会計の当初予算ベースです、それが今340億円という形になっているわけでありまして、それは経年での幾つかの多い、少ないはあろうかと思えますけれども、大体その線でこれからも財政運営を行っていくことが肝要かなというふうに感じております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 人口減少、少子高齢化については、本市のみならず、国全体の問題でもあるわけですが、それゆえ行政としては課題に対処すべく、施策も多岐にわたるわけですが、市長はこの広い広域において、各地域の課題をどのように捉えているか。また、その課題解決に向け、各地域において施策をどのように進めていくのか、所見をお聞かせください。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 人口が減少していく社会というのは、これは我が国どこでもそういう状況があります。今それこそ人口ビジョンでお示しをした、村上市における人口の動態というのが、また県内であれば新潟市、また首都圏に向かって人口が流出をしているというふうな状況が少なからず見てとれるわけでありましてけれども、そういった首都圏においても、もう既に人口が減少する状況、またさらには高齢化が進んでいる状況、これが発生をしているわけでありまして、首都圏といえどもそういうふうな状況にある。これを見たときに、我々国民がどういうふうな形で今後の人生における生活の場、これをどこに求めていくのかということ考えたときに、やはり暮らしやすい、住みやすい、また教育も含めてでありますけれども、そういったところが重要になってくるというふうに思っております。今後どんどん関係人口、こういうものが、また交流人口がふえていくというふうに思っておりますので、そうしたときに豊かな食であったり、豊かな自然、こういうものを

従来から持ち続けている我が村上市にとりましては、その部分は非常にポテンシャルは高いなというふうに思っております。そこにこれからどんどん、どんどんICT化を含めて、技術が革新する中でいろいろと時間的、また物理的な距離も縮まる。そうすると、生き方というのは、生活の仕方というのはいろいろな工夫をして、どこでもそれを感じできると、享受できるというふうな時代ももうすぐそこにあるわけでありますから、そんなところを村上市のいいところをどんどん、どんどんアピールをさせていただきながら、ある程度この地域経済がしっかりと循環できるような、そういう体力をつくり上げていく、これが重要だなというふうに思っておりますので、人口減少に対する対策というのは、これが正解であるというものはないと思いますので、しっかりとその辺のところは、実際に取り組んだ内容を検証して、振り返りながら先に進めるという作業を継続的に進めていきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） それでは、施政方針に従って、「いきいき元気な笑顔輝く、支え合いのまちづくり」からお聞きをしてみたいです。

厚生連村上総合病院も計画どおり開院に向けて予定どおり進んでいるとお聞きしていますが、今年度は2億5,000万円の追加支援、3年間で5億円の支援としていますが、市の要望を入れ込んで計画どおりに話し合いは進んでおりますか、お聞かせください。

○議長（三田敏秋君） 保健医療課長。

○保健医療課長（信田和子君） 1月18日の全員協議会のほうでご説明したとおり、協定書に基づく内容のほうで進めておるところでございます。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） それこそこれまでも協定をさせていただくときに議会にご説明をした部分があるわけでありますが、我が村上市にとって中核医療施設、公的病院としての位置づけ、さらには先ほど来議論させていただいております、例えば人口減少であったり、そういう部分に対応するために、これからは村上総合病院にも病児保育センターというものも設置をしていきたいなということ、このご要望もさせていただいておりますし、また急性期の医療を提供するためにも、例えばドクターヘリの活用ですとか、そういうものについてもそういう機能を有した形、当然あそこは災害拠点病院にもなっているわけでありますから、そういった意味において、この地域の確たる医療資源として位置づけさせていただきたいということを話をしてきました。その部分につきましては、厚生連のご配慮によりまして、村上市が望んでいることについては十分そこに盛り込んでいただいているというふうに思っております。極めて順調に進めていただいているというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 厚生連瀬波病院の耐震改修にも触れていますが、どのような話し合いが行わ

れていましたでしょうか、お聞かせ願います。

○議長（三田敏秋君） 都市計画課長。

○都市計画課長（東海林則雄君） 瀬波病院につきましては、国、県の支援を受けて耐震診断を実施いたしまして、その結果、耐震改修必要であるというようなことで、平成30年度には耐震改修の設計をやりまして、平成31年、平成32年度に改修する計画と聞いておりますし、それに基づきまして平成30年度に耐震の国、県、市から支援の予定をしております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 子育て環境の充実ということで、親子で利用できる遊び場の提供、子育てにおける保護者の不安解消については大変重要であると思いますし、また必要なことと考えますが、市長はどのようなイメージを考えていますか。また、地域、地域に必要なと思います。市長の所見を伺います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 私もこれまでいろいろなところに出向きまして、子育て現役世代の皆さんとの議論をさせていただいているのですが、その中でやっぱり人生を送る中で、その時々、小さい子どもさんを抱えた中で生活を営んでいくというときに必要なものというような視点から、非常にまちを歩きながら、例えばベビーカーを押して、すぐ近くまで行けるというふうなところ、ただそのときにはお天気がよければいいのですけれども、雨が降ると大変だよねと、いろんなニーズがあります。そういうことをトータルで考えて、そういうふうな近距離であったり、車を使った遠距離であったり、そういうものでそのニーズに応えられるようなところがあるといいなというふうに思っております。私も子育て中にはそういう経験をたびたびしているわけでありまして、まさにそういうふうな状況をイメージしながら考えています。

それともう一つ、以前村上のまちづくり協議会の皆さんからご提案がありました、例えばまちの駅的なものを設置することによって、例えばそういう形で誰でもそこに寄ることができて、そこでいろいろな情報交換ができる。また、そこには例えば高齢期を迎えている皆さんが寄って、例えば子育てに対する自分の経験をご披露いただくような、そういう各世代間の枠を越えて交流できるような部分があってもいいのだらうなというふうに思っております。ですから、そういったいろいろなメニューを大々的に、さあこうしましたということ、それもある意味必要なのかもしれませんが、そうではなくて、今ある資源を有効に活用した形で、そういうふうな行動が図られるということ、この視点もあわせてイメージをさせていただいているということでございます。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 高齢者の健康、就業確保は生きがい活動にもつながる重要なことと考えていますが、具体的な取り組みとはそのように取り組んでいかれるのか伺います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 今、私いろんなところにお邪魔させていただいていますと、非常に高齢期を迎えている方々もお元気であります。今65歳以上が高齢者というカテゴリに分類されるわけでありましてけれども、ある意味65歳を超えてもしばらくの間は現役と全く変わらないというふうな形もあると思います。昨年、山北地域にゲートボールのお邪魔をしたときに、88歳の方が元気よく走り回っていました、これが現実です。でも、その方もきちんと医療機関に受診をしております。これは予防という意味もあるのだらうと思いますけれども、そうすると医療費そのものも高額にならない中で、その健康を維持しながら生活をしていけるというふうなところがありますので、ぜひの方々には、例えばモチベーションを維持し、例えば所得を得ることによる達成感とか、そういうものを感じてもらえる、生きがいを感じてもらえるような、そういうものがあるといいなというふうに思っております。ですから、各産業、各年代、各性別において、そういうことを提供できるのがある意味必要なというふうに思っておりますが、まず当面、例えば農業の分野でいきますと、現役世代のように耕作はできないけれども、それをサポートする体制で何らかのかかわりを持つ。そうしたときに、所得は当然違うわけでありましてけれども、そういうふうな形で少なからずそういう生活が送れるようなところから、この生きがいを見出しただけというふうなところは一つ視点としてあるのかなというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 保育行政や介護サービスについても前向きに取り組んでおられますが、人材の確保につきましてはさまざまと施策を講じ、苦労されているものと考えますが、現状はどうなっていますか。また、施策の見直しを含め、対策をどのように考えているのかお聞かせください。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 特に保育行政の部分に関しましては、先ほど来お話がありますとおり、ご指摘もいただいているとおり、なかなかこの保育士の確保というのが難儀をいたしております。昨年、2カ年、平成29年度、平成28年度に保育士の待遇改善ということで、賃金アップをさせていただきました。その結果、やはり少なからず従事していただける方を確保することはできたのですが、それは多分根本的な解決策には至っていないのかなというふうに思っております。私の認識では、今保育の部分に関するニーズが非常に、ゼロ歳児というもののニーズが高まっているというふうな状況があるものですから、そこをフォローするためには、やはりマンパワーが必要だということで、その人材確保、非常に今苦慮しているところであります。

しかしながら、苦慮していても始まりませんので、しっかりとなぜそういうふうに確保できないのかという、その従事をされる方、資格を持っている方の絶対数量も含めて、そのところの研修をしっかりと進めながら、今取り得る部分については最大限の努力で取り組みを進めさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 次に、「ひと、まち、自然が調和する、美しい定住のまちづくり」についてお伺いします。啓発の意味からも、新エネルギー復旧促進を図ることは大切であると考えていますが、住宅用太陽光発電や木質バイオマスストーブの設置補助の今までの実績と、今後も要望の見通しは多いと考えますが、いかがでございましょう。

○議長（三田敏秋君） 環境課長。

○環境課長（中山 明君） 新エネの補助金の状況でございますけれども、平成29年分の2月19日現在になりますけれども、住宅太陽光発電システムにつきましては、37件の交付決定をしているところでございます。また、木質バイオマスストーブにつきましても、2月19日現在で13件の交付決定をしているところでございます。

なお、創設されたのが平成24年になりますけれども、当時よりは減っているところでございますけれども、引き続きまして地球温暖化対策として有効な事業というふうに捉えておりますので、継続してまいりたいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 訂正します。木質バイオマスストーブでございました。

次に、地域の期待も大きい道の駅朝日の基本設計がいよいよ着手になりますが、国、県との協議は順調に進められていますか。また、地元関係者との協議は進んでおりますか、お聞かせください。

○議長（三田敏秋君） 建設課長。

○建設課長（中村則彦君） お答えします。

第1点目の国、県との協議でございますが、このたびの基本計画策定のプロセスにおきましても、検討会を立ち上げまして、この検討会の中には国のほうからアドバイザーというような形で出席いただいております。会議の状況を見守っていただいております。この間道の駅につきましては、一体型、国と市がそこの道の駅の中に入るような形に、施設が入るような形になります。その関係もありまして、国のほうと打ち合わせを進めながら進めている状況にあります。

また、検討会につきましても、これまで数回の検討会を重ねまして、地元の意見をこの計画に取り入れながら、計画の策定を進めているところでございます。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 高速のりあいタクシーの利用実績と今後の課題をどのように考えておりますか。先ほど長谷川議員からも同じ質問ございましたけれども……失礼しました、教えてください。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（川崎光一君） 先ほどもお話しさせていただきましたが、現在順調に利用者が伸びておりまして、1月までの累計で794名乗車いただいております。今後の課題といたしましては、やはりいろんな目的で使用される方もいらっしゃると思いますので、できる限り周知をしていきまして、できれば平均乗車密度5人をキープするような状況まで持っていかたいと考えております。

す。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 実は私もこの車に月1回厄介になっております。それで、大変便利、私は便利なのですが、乗る人がえてして私1人、行きも1人、帰りも1人で、何か申しわけない気持ちになりまして、運転手さんといろいろ話して、病院だけではなく、買い物も乗ればいいのになんていうようなことを言ったら、そうですねというような話したのだけれども、この次というか、この次からなるということを知ったので、ありがたいと思っております。

また、乗るところが坂町の、今まで高速の休憩所でありましたけれども、今度荒川支所ですか、荒川支所のほうも回っていくということなので、今までよりかは余計になるのではないかなと思うような気がするのですけれども、その辺いかがですか。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（川崎光一君） 今おっしゃるとおり、荒川バスストップにつきましては、バスストップまで上がる階段が非常に高齢者の方大変だということで、この4月から荒川支所のほうに乗降場所を見直しております。そんな関係で、利用者の増加が今後見込まれるものと考えております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） あのバスは全部で何台あるのですか。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（川崎光一君） 3社に業務委託しておりますので、3台ございます。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 瀬波タクシーと、それともう二台はどこで、荒川に1台あるのですよね。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（川崎光一君） 今議員おっしゃった瀬波タクシーと、はまなす観光タクシー、それから藤観光タクシー、3社でございます。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） とても便利いいですので、市民の皆さん、今度新潟行くときに利用してはいかがでしょう。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 次に、地域からの要望や安全の観点から、市道の整備、通学路、橋梁の整備を計画的に進めるとしてはいますが、今後の整備計画を伺います。また、要望には応えているのか、あわせて伺います。

○議長（三田敏秋君） 建設課長。

○建設課長（中村則彦君） 市道等の整備計画でございますが、私どものほうでは市道の道路整備計画というふうなことを年次計画を持ってございます。そのように、年次計画に沿って進めているも

のと、大きなプロジェクトに伴いまして、すぐも整備しなくてはならない道路、これらを組み合わせて道路整備をしてございます。例えば運動広場につながる道路とか、これらの幹線道路の年次計画のほかに組み入れながら整備いたしているところでございます。そのほかに近年橋梁等、老朽化に伴いまして、長寿命化対策が必要になってございます。村上市全体で803橋の橋があるわけでございます、これらの橋梁が年々老朽化いたしまして、修繕工事をしなくてはならないというふうな状況になってございまして、これらの橋につきましても、老朽化の度合いを調査しまして年次的に改修を進めていく、そのような形で整備を行ってございます。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 厚生連村上総合病院の移転に伴い、アクセス向上に取り組むとありますが、駅の西口やJRの連絡通路の計画では、どのように利便性向上に取り組まれているのかをお伺いします。

○議長（三田敏秋君） 都市計画課長。

○都市計画課長（東海林則雄君） 駅の東西を結ぶ連絡通路につきましては、先ほどの質問に答えましたけれども、同じような形で、私どもとしては都市再生整備事業の事業手法等について国、県などと協議を進めておりまして、実施に当たりましては財政状況を考慮しながらやっていくことになると考えております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 続きまして、空き家対策は今後大きな課題となりますが、移住者をふやす観点からも空き家バンクは重要と考えますが、現状と今後の計画を伺います。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（川崎光一君） 空き家バンク事業でございますが、平成23年度から始まったものでございますが、現在までの成約数が24件、そのうち移住していただいている世帯が20世帯、40名、それから2地区居住していただいている方が4世帯、10名という実績でございます。今後も引き続き今年度作成される空き家対策計画、その中でますます空き家バンクの重要性が増してくるものと思われまますので、利用可能な空き家につきましては、空き家バンクの登録を推し進めてまいりたいと考えております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 次に、「産業が創る地域の誇り、活力みなぎる賑わいのまちづくり」についてお伺いします。このことについては、市長の施政方針の初めにもあるように、産業支援プログラム補助事業、ふるさと納税のお礼、お礼品、また村上の食、伝統的工芸品等のプロモーションなどの施策によって一定の成果は上がっていると思っておりますが、市内地場産業、農林水産業を含めた底上げには至っていないと考えます。現場の声を聞いて、啓発も含め、もう一計欲しいと思っておりますが、所見を伺います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 村上市を取り巻く各産業の経済力、これをしっかりと各分野ごとに上げていくということにつなげてこれたのではないかなというふうに思っておりますので、しっかりとした地域の経済基盤の底上げに私は十分その効果を派出しているというふうに評価をし、分析をしているところであります。

今回の予算編成に当たっても冒頭申し上げましたとおり、やはりいろいろな分野、分野における経済効果を、またさらにその効果を大きくするために、そこのところの拡充を図っていく。また、なかなか効果が出ないところについては、また別な仕組みで新たな取り組みを進める。さらには、この体力が大きくなってきたところで、さらにそれを先に進める、いろいろなメニューごとにしっかりと取り組みを進めていけば、村上市の経済はまだまだしっかりと伸び続けることができるだろうというふうに思っております。ただ、これはイメージだけではだめでありますので、具体的にデータをしっかりと検証しながら分析をしていく、それもあわせてやっていくことが肝要だろうというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 農林水産業、村上木彫堆朱や羽越しな布などなどについて、担い手支援、後継者育成の施策が示されていますが、非常に重要と考えます。それら産業の担い手が不足しているのはどうしてか、所見を伺います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 幾つかの視点はあるかと思いますが、まず1つが、職業としての選択、これは職業として選択する以上は、それをしっかりとそこで所得を確保して生活ができるという、こういう見通しが立たなければなかなかありません。ただ、学習をしてきて、経験を積んできて、例えばそれが本当に自分のライフワークとして好きなのだ、やりたいのだというのとまた別だと思えますけれども、ただそれもしっかりと継続させていくためには、働いた分だけ対価が見込まれるということが必要であります。そこのところが、若干足りない部分はあったのかなというふうに思っております。ですから、今担い手を育成すると同時に、しっかりとその伝統的工芸品を〔質問終了時間10分前の予告ブザーあり〕売り込む、売り切る、そういうふうな作業をしているわけであり、これは供給と需要のバランスでありますから、需要が伸びているのに供給が足りなければ、やはりそれは継続できなくなるわけでありますから、担い手もあわせて育てていく、これは各機関連携して、しっかりとそういうふうな取り組みを、総合力で取り組んでいくということが必要だなというふうに思っております。その部分が少し足りなかったのかなというふうに思っておりますので、そこに力を注いでいるということであります。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 産業支援プログラム補助事業についても、利用者の声を聞いて効果的な支援

制度の見直しを図るとありますが、農林水産業も商工業も稼げる産業、つまり所得の向上こそがこの地域の振興、活性化につながるものと考えられますが、このことについて本市のトップとして、市長の思いと所見を伺います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 今議員がご提言されたとおりだというふうに私も思っております。ただ、その中で1点、各産業部分の、農林水産業一つ一つ個別でありますけれども、そのマックスボリュームがどうなっているのかというものも大切なのですけれども、そこにはやはりそこに従事をされる一人一人の就業があるわけでありますから、その方々がしっかりと利益を出す、そういう商いを毎年、毎年継続して行えるということが必要だろうというふうに思っております。ですから、まずそうすると、多分従事されている皆さんは大きく成功体験を自分のものにできると思うのです。そうすると、次のやっぱりその就業についてのモチベーションにもつながっていくということだろうというふうに思っておりますので、結果としてそれが地域経済全体としての底上げにつながっていくというふうに思っております。ですから、それぞれが従事する職業の中で、しっかりとしたその対価を得られるのだという、この成功体験を最大限派出できるような、そういう施策の提供をしていきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 「伝統と文化を育む、すこやか郷育のまちづくり」についても伺います。2月5日に（仮称）村上市スケートパークの起工式が行われ、来春には完成を見る見込みですが、平野歩夢選手の銀メダル獲得により、スケートパーク建設に弾みがつくと思いますが、市長の思いと決意を改めてお願いします。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 今回の平野歩夢選手の2大会連続銀メダルの快挙、これは本当に我が村上市の誇りであると同時に、日本の誇りにもなりました。世界が認める平野歩夢ということになったわけであります。これは紛れもない事実。彼が4歳から始めたスケートボードであそこまで成長された、それをつくり上げてきたところがああ、今ある地であります。ですから、そういうところをしっかりと我々は若い世代が頑張っている姿を応援していく、またさらには、そこに続く若い世代がどんどん、どんどん出てきている。今回の快挙、多分皆さんもそうだというふうに思っておりますが、純粋に感動したのだというふうに思っています。そういう感動を与えてくれる、そういう人間が我が郷土から輩出されたということ、やはりこれをしっかりと我々は受けとめて、そういう人材を育て上げることができるのだと、そのための拠点づくりにつながるのだということで、私自身も取り組みを進めていきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） また、来春のスケートパークの完成にあわせ、平野歩夢選手と、できればス

ケジュールが合えばショーン・ホワイト選手を招いて、スケートパーク完成式典を今から計画してはいかがでしょうか、市長の所見を伺います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 幾つかそういうお話もいただいております。ただ、今平野歩夢選手のスケジュール、非常に過密になっておりまして、直接私お父様ともまだお話をしていない状況であります。本人とも話していない状況であります。機会を捉えてそういうことも提案をさせていただきたいというふうに思っております。

それと、そういったインパクトのあるものと同時に、やはり運営を考えたときに〔質問終了時間5分前の予告ブザーあり〕やはりあそこがしっかりと人を育て上げられることのできる施設なのだという、これはやっぱりしっかり地に足をつけた形での運営側についてもきちんと考えていきたいというふうに思っておりますけれども、機会捉えて相談をさせてみたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 最後に、「ひとりひとりが活躍する、市民が主役のまちづくり」について、平成30年度において商工観光課を地域経済振興課と観光課に分課するわけですが、まさにこのことが本市の課題解決に大きく寄与するものと期待していますが、市長の思いを伺います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） これが全てではないのだろうというふうに思っておりますが、やはり今組織として動いておりますので、この組織が存分にその機能を発揮させることができる、そういう体制はどういうものなのかということを実際に庁内でも議論をさせていただきました。そこには村上の持つ魅力、これをどういうふうな形で派出をしていくと、例えば国内においてもそういう評価をいただける、また世界に向けても今後発信をしていこうと思ったときに、どういうふうなアクションを起こしていくことが重要なのか、それをスムーズに行える組織をまず考えたときに、今回の分課というふうな形に到達をしたところであります。これは、ここだけにとどまらず、ほかの部分についても継続的にふだんの見直しをしているわけでありますから、これからやはりフレキシブルに対応できるような組織に変えていく、変わっていく、これは必然なのだというふうに思っております。その第一歩として、今回はこの課を分けるということが非常に大きな力になるのかなというふうには思っております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） いろいろと申し上げましたが、課題が山積している中、積極的な行政運営に心がけ、ぜひ「やさしさと輝きに満ちた笑顔のまち村上」の創造に努められるようご期待申し上げ、私の代表質問を終わります。

ありがとうございました。（拍手）

○議長（三田敏秋君） これで清流会の代表質問を終わります。

午後 1 時55分まで休憩といたします。

午後 1 時 4 2 分 休 憩

午後 1 時 5 5 分 開 議

○議長（三田敏秋君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

○議長（三田敏秋君） 次に、高志会の代表質問を許します。

7 番、尾形修平君。（拍手）

○7 番（尾形修平君） ご苦労さまでございます。それでは、高志会を代表いたしまして質問させていただきますと思います。

昨日の市長挨拶にもありましたように、今冬の記録的な降雪により市民生活にも大変な影響がありました。そんな中、不眠不休で除雪に携わっていただいた業者の皆様には衷心より感謝申し上げます。まだまだ雪の影響は残っておりますが、排雪作業も連日行われているようであります。市も災害警戒本部を設置しましたが、断水などの水道施設の課題もあったというふうに昨日報告を受けましたが、この教訓を踏まえて、来年度に向けての改善点などがあればお聞かせください。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 具体的な内容につきまして、総務課長のほうからまたお話をさせていただく機会あるかと思えますけれども、まずやはり有事の際、もうほとんど災害状態に近い状態でありましたので、一刻も早く市民の安全を確保しなければならないので、庁内全体に警戒本部を敷きながら、横の連携、情報の共有を一刻も早く図ろうということで取り組みを進めました。しかしながら、職員の移動も今回非常に困難をきわめたというような状況もありましたので、また現地の確認にも非常に困難をきわめたということがありました。この情報収集能力の高さ、これが非常に災害、有事の際に対応するときに大きなやはりウェイトを占めるなということを今回痛切に感じましたので、そここのところをクリアできるような仕組みを今後設けさせていただきたいというふうに、私自身は感じをさせていただきました。

○議長（三田敏秋君） 総務課長。

○総務課長（佐藤憲昭君） お答えいたします。

この豪雪につきましては、平成18年に匹敵する豪雪でございます。平成18年、合併前の自治体におかれましては、旧朝日村で災害対策本部を設置してございます。その後、今回雪に対する警戒本部をつくったわけですが、警戒本部が設置されたのは初めてでございます。地域防災計画の中にも雪に対する対応というのは余り表記されていないということもありますので、今後地権者のご意見をいただきながら、その対応については万全を期したいというふうに考えております。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） 今回の豪雪では、業者の方が本当に不眠不休でやっていただいた結果、市民生活の交通が確保できたというふうに私思っておりますので、市長のほうからも後ほど業者の方にねぎらいの言葉などをかけていただければというふうに思います。

また、先ほど来お話がありましたけれども、ピョンチャンオリンピックで平野歩夢選手の活躍で村上市の名前が世界的に発信されました。先ほど清流会の会長からお話ありましたけれども、インタビューで、くしくも今回金メダルをとったショーン・ホワイト選手が、東京オリンピックにおいても平野歩夢選手と戦いたいというような挨拶をしていただいて、それでまた歩夢君とショーンのつながりが世界的にも発信されたのだというふうに思いますし、来年の3月にはスケートパーク竣工するわけですから、可能か可能でないか、先ほどの市長の答弁だとなかなか難しいかなというふうには思うのですけれども、できればショーン選手を招致して、こけら落とし的なものをできれば、また東京オリンピックの1年前になるわけなので、世界的な発信ができると思うので、ぜひそれも努力していただきたいなというふうに思っております。

また、前回のソチのときには銀メダルをとったということで、市からも表彰をした記憶が私もあるのですけれども、当然市長の挨拶にありましたように、凱旋パレードや祝勝会も計画されているようでもありますけれども、その表彰の上の、いわゆる市民栄誉賞というような形の表彰があってもいいのではないかなというふうに私考えているのですけれども、市長のご見解を伺います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 本当に先ほど冒頭、雪害につきましては、私からも今度機会を捉えて、特に除排雪に当たられました業者の皆様方には心よりの感謝を申し上げたいというふうに思っております。本当にこの部分については頭の下がる思いでありますので、しっかりと対応させていただきたいと思っております。

また、今回のスケートボードの結果、平野歩夢選手の結果でありますけれども、ショーン・ホワイト選手が「平野歩夢が僕の背中を押してくれた」という言葉、それと平野歩夢選手は、これからスノーボード人生の中で、さらに高みを目指していきたい。彼をあそこまでのモチベーションに育て上げたのも、10歳ぐらいのときでしたが、まだ平野歩夢君がちょっと髪長くて初々しい、本当に子どものような姿、それをちゃんと肩に手を置いて、ショーン・ホワイト選手の写真が今回も幾つもありましたけれども、あそこからお互いにお互いをリスペクトし合いながら、しっかりと今日までつないできたということでもあります。我々がはかり知れない彼ら2人の中の相通ずるものというのがあるのだらうと思います。ですから、先ほど川崎議員からもご提案のありました形で、できれば私もそれが実現できれば、これ以上の喜びはないなというふうに思っておりますので、しっかりとその取り組みを進めさせていただきたいというふうに思っております。

それと、市民栄誉賞という視点はないのかというご質問でございますけれども、当然それについては視野に入れながら、この対応を考えていきたいというふうに考えております。これは、やはり

一つの大会、オリンピックでメダルをとるというのも物すごいことなのでありますけれども、これ2大会連続で続けた、それが15歳から19歳、この4年間、それこそいろんなことがあって、昨シーズンにはあのような大けがをしながらに勝ち得た、やはり彼の勲章なのだろうというふうに思っております。その彼がなし遂げた勲章を、我々は誇りに今思っているわけでありまして、感動もさせていただきました。さらには、勇気も与えてもらいました。これが今、我々がそのことに対してしっかりとやはり賛辞を送るというタイミングなのだろうというふうに思っておりますので、その仕組みにつきましてはこれから、いろいろなあり方があると思っておりますので、議会の皆様方にもご提案をさせていただいて、ご協議をさせていただきながら、しっかりとした対応をしていきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） ぜひそのようにお願いしたいと思います。

また、今回カーリング女子では、LS北見というところが日本代表として出ているわけですが、その町が北海道の常呂町というところで、人口7,000人ぐらいの町ですけれども、すばらしい施設を持っているわけです。人口7,000人の町にして、あの施設でどうなのかなと、一般的にはそういうふうに見えると思うのですけれども、今回村上市がスケートボードの聖地ということで、全国的に打って出るわけですから、私はできればその常呂町みたいに、小学生、我々にやれと言ってもちょっと難しいと思うので、小学校の教育課程の中でもできれば取り入れられないかなというふうには感じているのですけれども、その辺教育長いかがでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） おっしゃったように、小学校、中学校にも体験できるということをお願いしながら、施設の有効活用、将来のアスリート育成に向けて頑張っていければなと思っております。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） ありがとうございます。

それでは、本題に移ります。本年度の予算に関しては、皆さんご指摘のとおり、過去最大となっており、積極予算となっておりますけれども、昨年度と比べて市債が約45億5,000万円と、10億6,700万円ほどふえているわけでありまして。また、基金繰入も10億7,000万円ほどふえております。昨日の財政課長の補足説明では、予算一覧表で昨年度の比較で3.9%ということでしたけれども、昨年も過去最大の予算規模ということで、平成28年度と比較すると約7.2%の上昇になっていて、私調べたところ、県内20市でこの数字を出しているところはありませんでした。それが結局悪いというのではなくて、やっぱり皆さん心配しているのは財政の部分だというふうに思っているのです。地方交付税も減少している中で、市長の答弁ずっと聞いていますと、思いはわかるのですけれども、やっぱり心配されるのは自主財源が減少している中、今後市政がうまく運営できるのかなというの

が皆さんの心配するところだというふうに思っております。市長、何回もの話になりますけれども、先々5年後、10年後、我々いるかいなかわからないですけれども、今回の予算を精査するのは行政と議会ですので、責任を負わなければならないというふうに私は思っているのですけれども、その辺市長の思いをもう一度ご確認させてください。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 当然我々は、議会にご提案をする以上、市民のこれからの生活をしっかりと支えていく、その最大限の予算を提案をさせていただいております。これが村上市が今取り得る最善の策だということなのだろうというふうに思っております。

これまでも申し上げさせていただいておりますとおり、我々予算編成をするに当たりまして、当該年度の1会計年度における出口、入り口も当然考えるわけで、これはどんな場面でもそうだと思います。入があって出がある、出を得るためには入がなければできないわけでありますから、そういうふうに考えます。

さらには、少なからず起債を充当した事業をやりますので、これは後年度の負担ということになりますから、その部分もしっかりと見据えた形、これがトータルでの財政計画になります。ですから、中・長期にわたって、これまでの議会にお示しをしておりますとおり、財政計画に基づいたものであります。ですから、そういうふうな形で、ところが今回の雪害もそうでありますけれども、いろんな形でいろんな事象が発生します。今平成29年度から継続している事業につきましても、それこそ前倒しをして、優先順位を上げてやっている事業も当然あるわけでありますけれども、トータルのそういうふうな施策の中で、当然財政計画を見据えた中で先に送るもの、または一旦休止をするもの、こういうものもしっかりと視野に入れながらやっていくということでありますので、そのところはしっかりと議会からもご指摘をいただいているとおり、透明性を高めて、オープンにしながら、我々もしっかりとそのところに思慮しながら、これから進めていきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） 昨日の財政課長の説明にもありましたけれども、予算を組むときに各課に配られたあの予算編成方針です。編成方針では、無駄を徹底して排除しつつ、国の景気回復におくことなく地域経済が成長するよう重点化、効率化を図り、予算を編成するものとする。また、要求基準については、事業の優先度やスクラップ・アンド・ビルドによる検討を十分に行い、調整した上で要求することとなっております。既存事業の見直しとなった部分はどのようなものがあるのか、お知らせください。

○議長（三田敏秋君） 財政課長。

○財政課長（田邊 覚君） これまで継続して、毎年毎年やっているからということで継続している事業というのもありましたが、その内容を改めて精査してもらいながら、予算規模についても確認

をしていただきました。具体的なこれとこれという大きな事業については、特にはお知らせするのはございませんけれども、特に一つ一つの継続して長く続けている事業について、改めてその検証をしていただきまして、これからの取り組みについて考えてもらいながら、新年度の方針を決めたところでございます。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） この「スクラップ・アンド・ビルド」という言葉は、市長も使いますし、私も一般質問でも市長と議論したことがありますけれども、なかなかスクラップにすると、建物のスクラップとかというのはあれですけれども、政策とかというものをスクラップするというのは、なかなか抵抗勢力とか既得権の部分があって、できない部分があるのですけれども、その辺実績とか、その効果を徹底検証するということになっているわけなのですけれども、なかなかできないというのが私実情ではないかなというふうに思っております。その辺市長の考えをお聞かせ願えればと思います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 行政の予算は、ある程度そこを不断の努力を持って検証を加えて、削り取っていくということは大切なかもしれませんが、ある程度恒常的に経常経費として固まっている部分、これいたし方ない部分があるやにやはり感じています。そうすると、結果的にその調整ができるというのは、新規も含めてですけれども、投資的経費の部分に係る経費、これをどういふふうに調整していくのか、先ほどちょっと触れさせていただきましたけれども、やはり村上市の体力からいくと、約330億円前後ぐらいの予算が今後安定した形での行政運営ができるということだろうと思うのです。それは、年度ごとに少しずつでこぼこしますので、その辺の調整を含めてということでもあります。

ですから、その投資的経費の部分については、これから今年度で必要とされるものということで予定されているものがありますから、例えばそれを年次計画で延ばしたり、また縮めたり、そういうふうなことをしながら年間の予算を調整していくということになるかというふうに思っております。

ただ、それで、先ほど基金の話もありましたけれども、基金というのはそういう調整をするために、足りないときには投入する、余裕のあるときにはまた積み戻すというふうな形で、やはり安定的な財源として確保していく部分だと思えますから、それもやりながら、そういうふうな形で進めていく。ただ、全くもってこれをスクラップにしていくというのがなかなかできにくい状況ではありますけれども、やはり効果の上がないものについてはしっかりと見直しをする、これは必要だなというふうに思っておりますので、それは常々の政策運営の中でも私から指示をさせていただいているところであります。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） 本当にそうだと思います。私以前から、大滝市長のころから指摘してきました、プレミアム商品券なんか、平成30年度も2,000万円の予算がついて行われるわけですが、今の経済状況を見て、そのプレミアム商品券自体の事業効果があるのかといたら、私は本当に疑問視している一人なので、その辺も前回の部分では消費税の増税前でしたから、その動向を見きわめてというようなお話で今まで継続したわけですが、なかなか一旦始めた事業をやめるとするのは難しいかなというのをつくづく感じておりますけれども、その辺市長いかがでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 非常に同感であります。プレミアム商品券につきましては、平成28年度の事業実施後にそういう検証がありまして、平成29年度どうするのだという話です。ですから、昨年も予算編成のときにもその議論は庁内でさせていただきました。当事者であります事業者の皆さん、また商工会議所、商工会の皆様方、要望いただいているのです。いただいているのですけれども、その上でどうなのだろうという議論をさせていただきました。その結果として、今また提案させていただいておりますが、以前の景気浮揚という部分のスキームから、今むしろ生活支援側に回っているという部分がありますので、その辺もきちんとした根拠づけを改めてして、名称は「プレミアム商品券」という形になっていきますけれども、少し私の中ではニュアンスが変わっているかなというふうに思っております。その生活支援がそういう形で必要なのであれば、そういう形で投入する、だから制度も少し変えさせていただきました。広く皆さんの手に届くようにというふうな形、どういう使われ方をするのかというのもきちんとその追跡ができるような形というのですか、きちんと市民の皆さんのそここのところに届いている、ニーズに届いているのだということも見きわめてくれという形で、名前は一緒ですが、内容は変わっているので、そういう変化の仕方もあるのだろうというふうに思っております。

ですから、それはスクラップするのではなくて、新たなスキームとして提案をさせていただいているということでもあります。ただ、議員ご指摘のとおり、今まであるから継続してやっていく、よそからそういう要望があるからそれを継続していくということに私はこだわっているものではありません。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） 今市長言ったような、政策的に制度の中身が変わっていったらというのであれば、それはそれで私はいいと思うのだけれども、そうするのであればもう一歩進んで、例えば生活困窮者、低所得者向けのものであればあれなのだけれども、実際今利用されている方のやつを見るとなかなかそうではなくて、いわゆる村上の中でいう富裕層的な方の利用のほうが余計に感じるものですから、あえて発言させていただきました。

あと先般、私ども市民厚生常任委員会で閉会事務調査、副市長にもお越しいただいてやったわけですが、その中で1点、私指摘させていただいた、敬老祝い事業、今村上市は米寿、白寿、

百寿ということで3段階で行っておりますけれども、その中で米寿と百寿はいいにしても、例えば白寿、99歳のお祝いをもたらした翌年、また100歳のお祝いというのであれば、例えば白寿をやめるとかということ、今100歳のお祝いに20万円のお祝金出したけれども、その20万円が果たして適正なのか、本当にお祝いなのだから10万円でも、市の財政が厳しいのだから、10万円でもいいのではないかというような議論が予算編成の段階でなかったのかどうか、市長いかがでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 直接個別の施策についての金銭的な部分というのはなかったわけですが、今回の高齢者のお祝金の部分についても、私は直接やりとりしませんでした。ただ、今議員ご指摘の部分というのは、一つの視点としてはあるのだろうなというふうに思っております。ただ、私自身の感覚からいいますと、ご高齢、88、99、100をお迎えになった方というのは、我々の先輩であります。この地域をしっかりと作り上げてきていただいた方々でありますので、その方々にその旨をもって敬老をあらわすということは非常に大切だなというふうに思っております。その額が、それをでは果たして10万円にしたからいいのかどうかという議論よりも、いわゆる20万円を捻出するために、ここはやっぱり我々は我慢をしようという形でそれを捻出していくというような予算編成、ですから当然ながら、これをやる以上はここは我慢しようねということは当然必要だと思いますし、どっちかというところを、敬老のお祝金を削るよりは、ほかのところでは我慢をというのですか、経費を削減をしながらそこは維持をしていきたいという感覚が、今はあります。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） なかなか今までやってきたことを、さっきから言いますように、では20万円のものを10万円減らすとなると、やっぱり抵抗はありますよ、市民からすると。だけれども、それを、市の財政が本当に逼迫している状況であれば、私はあえて市長の英断とすることも必要なのではないかということで、申し上げさせていただきました。

あと、先ほど清流会の川崎会長からもお話ありましたけれども、高速バス、聞くところによると1人しか乗らなくて新潟まで行ったというのと同じく、市民サービスについてちょっと議論したいと思うのですが、昨年の荒川の病児保育が開所して、利用者もそこそこというか、本来であればないにこしたことはない施設なのだけれども、年間1,400万円、来年度から1,400万円の指定管理料を払って、私は先般会派で行ってきたときに、半年間の利用者が約200人ということでした。仮にそれが下がれば、1人当たりの単価が上がるわけです。仮に年間200人の利用者しかなかったとすると、1人当たりの子どもに対して7万円、当然利用料は、1,000円はもらいますけれども、1人当たりの利用者に対して7万円が市からというか、出るわけです。その市民サービスと税金の投入のバランスというか、というのはすごく行政内でももちろん議論されていることだと思うのだけれども、7万円と単純に聞くと、ふつうの〔質問終了時間10分前の予告ブザーあり〕国保の年金しかもらっていない人、私ら6万幾らしかもらっていないのにという感覚になると思います。その辺に関して、

市長のお考え、市民サービスと予算とのバランスです、お聞かせ願いたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 病児保育センターを利用する方にかかるコストの7万円と、国保の対象者の6万9,000円というのの比較というのが、私は単純にできないのだろうというふうに思っています。今子育ての世代におけるニーズ、これにしっかりと対応していくために病児保育センターがあるわけでありまして、少なからずそういう当事者の皆さん方からは喜んでいただいております。ですから、それぞれの世代、それぞれのお立場の方々に対応したサービスが必要である。そのコストを全て統一のバランスにしていくと、これ多分物理的に不可能だというふうに思っております。ですから、議会にお示しをして、行政の施策として提案をし、ご議決をいただいた後に、それを事業として運営していくというのが行政のあり方なのだろうというふうに思っております。いろいろな受けとめ方はあると思いますけれども、これから人口減少する社会の中であって、少子高齢化をしっかりと解消していくのだという一つの大きな施策として位置づけているわけでありますから、単純な比較はできないのですけれども、そういうご議論が当然あるのだろうなということは肝に銘じながら、一つ一つの施策をこれから立案をしていきたいと、運営をしていきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） よろしく申し上げます。

これ県のほうの資料で、県内30市町村の平成28年度の決算に基づく健全化判断比率というのが出ていますけれども、村上市で見ると、実質の公債費比率が非常に、県内30市町村の中では高いほうの部類に入っております。これまた平成30年度末になると、多分また数字的に上がるのではないかなと私心配しておりますし、将来負担率に関しましても、新潟市あたりはもう報道なんかでも基金が大分少なくなってきて、先ほど来言っている事業の見直しをかなり大胆にやっているというふうに報道では出ているのですけれども、その辺財政課長のほうで、平成30年度末でこの数字がどのぐらいになるかというのはシミュレーションされておりますか。

○議長（三田敏秋君） 財政課長。

○財政課長（田邊 覚君） 詳細まではこれから詰めるのでございますけれども、本年度よりは現在、平成28年度で将来負担比率が116.5%なのですけれども、プラス20代、30代、公債費がふえておりますので、その関係もありますし、繰入金等もありますので、基金が減少しているということもありますが、要するに数字のほうは悪くなっていくというふうに捉えております。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） 20、30、30まで上がってしまうと、県内でも本当にワーストのほうに入ってしまうのです。将来負担率というのは、年度の事業によって大きく変わりますけれども、別に私、ほかの市町村と比較する必要はないというふうには思っているのだけれども、やっぱりこれは数字的

に、新潟県全部の市町村が出ている数字なので、よその自治体との比較というのもある程度は必要なのかなというふうに思っております。その辺市長のご見解を伺えればと思います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 確かにそれぞれの自治体で多分いろいろな投資的事業を含めてやらなければならない事業、例えば極端な話、庁舎をどんと建てますよという話になったときには、これはもうどんと伸びてしまうという話になるので、一概にその比較はできないのだろうというふうに思っております。ただ、指標としては、今財政指標として幾つかのポイントがあるわけでありましてけれども、国がガイドラインで示している部分も含めて、そここのところにしっかりと入り込んでいるというのが、まず重要だなというふうに思っておりますので、そこはきちんとこれまでも財政計画の中で見据えながらやってきているつもりであります。ただ、その中でやはりその年、年に応じて、やっぱり大きくなったり小さくなったりするわけですから、これをスケジュール感の中で、単年度で見るのではなくて、やはり5年とか10年とかというスパンの中でしっかり見ていく、それが財政計画、健全な財政計画だというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。〔質問終了時間5分前の予告ブザーあり〕

○7番（尾形修平君） 自主財源が本当に減少していく中で、確保も重要な仕事ではないかなというふうに私思っているのだけれども、村上市の資産です、昨年ですか、大津保育園の売却もあれしましたけれども、なかなか入札に参加されてくれる方がおられなかったというようなことで、その改革の見直し等も含めて、やっぱり市の不要不急な財産等の売却に関して、市長どのようにお考えでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） これは、積極的に進めていくべきだなというふうに思っております。昨年の大津の土地につきましては、やはり使いにくい状況の中で買ってくれと言っても、なかなか買っていただけないというのが、これがやっぱり市場だと思いますので、市場の動向をしっかりと見据えながらやっていく。やはり同じものがあれば、いいもののほう購入していただけるわけありますから、そういうこと。不要不急の部分については、それぞれ行政財産として持ったわけありますから、不要な部分というのは時代の変化の中でそういう状況になったのだろうというふうに思っておりますから、その辺のところはどんどん、どんどん積極的に資金に、予算に変えていくという作業が必要だなというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） 皆さん、議員ご指摘のとおり、今後朝日のみどりの道の駅等、あと駅周辺整備等はまだまだ大型プロジェクト、村上市は控えていると私は思っていますので、今後の財政運営も含めて、皆さんの双肩にかかっておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上で代表質問を終わります。（拍手）

○議長（三田敏秋君） これで高志会の代表質問を終わります。

このまま続けたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○議長（三田敏秋君） それでは、このまま続けさせていただきます。

次に、市政クラブの代表質問を許します。

12番、小杉和也君。（拍手）

○12番（小杉和也君） 市政クラブの小杉和也です。市政クラブを代表しまして、代表質問をさせていただきます。5番目になりますので、大型事業とか予算とか、財政の部分かなり出ておりますので、私は施政方針の中でも新規のものであったり、拡充のものであったり、そういったところをちょっと質問させていただきたいと思います。

まず、市長に伺いますけれども、これだけの12ページのボリューム、施政方針を示されました。

ここの施政方針、今年度の施政方針にかける思いを少し聞かせてください。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） ページの多い、少ないではないとは思いますが、やはりこの予算、これまで編成をさせていただきまして、非常にやはり一つ一つのものがしっかりと命を持って市民の皆さんに届いていっているのかどうかというところが、やはり先ほど来各会派の皆様方からご指摘のある部分もあるわけでありまして、そういう感じを受けています。ですから、そういった意味においては、やはり市民のこれからの生活につながるもの、また誇りにつながるもの、次の世代を担っていく、次代を担っていく若い世代がしっかりと、夢を持って、希望を持って、やはりこの地で暮らしていられる、そういうふうな予算につながっていくものというようなイメージを抱きながら編成に当たらせていただいたというところであります。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） では、施政方針の中から伺いますけれども、最初1ページ、2ページとか順番にいきませんので、ランダムにいきますので、よろしく願いいたします。

まず最初に、教育長に伺いたいと思います。施政方針の9ページ、外国語指導助手の増員とありますけれども、村上市の中学生の英語の学力が県内でも低いほうだと言われておりますが、教育長の認識をお伺いいたします。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） N R T等で検証しているわけですが、やはり議員ご指摘のとおり高いとは言えないと認識しております。来年度、再来年度でしょうか、全国学力学習状況調査、英語も加わりますので、そこでまた新たに実態把握ができるのではと思っております。いずれにしても、向上していることは間違いございません。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 現状で、どのような対応をすればもう少し上がってくるのかなとお思いでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） やはり授業そのものを変えていかないと、単に小手先で補習をするだとか、練習問題を多くやるとか、そのようなことではなく、授業そのものが魅力ある授業、それによって児童生徒が関心を持ってより学ぼう、そういう意欲をつけさせるような授業を教員に求めていかなくてはならないと思っております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） では、市の教育委員会はどのような授業を変えていくために取り組みを考えているのか、伺います。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） この外国語指導助手の配置、これを苦しい財政事情の中増員する、計画的に増員していくということで、まず小学校の授業そのものを魅力あるものにしていけるようにする、それが中学生になっても反映できるようにする。それから、英語検定などの補助もしております。そういう中で刺激をつけ、意欲を持たせるように教育委員会として支えているところです。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） こういった取り組みで成果を上げている市町村もあると思いますが、それをそのまま村上市に持ってきて当てはまるというわけではないのですけれども、やはり先進のところというのは、何かがあるからやはりその力がついてきていると、そんなふうに考えるのですけれども、教育長どんなお考えでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） 特別なことをやれば伸びるというものではないかと思えます。市が理想とする授業、これを今来年度、平成30年度、冊子にして各小・中学校に配付いたします。こういうのを市として、教育委員会として望んでいるのだと。それを徹底してもらい、全てにおいて継続して徹底することが学力向上につながるのだと思っております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 私、英語のことをよく言うのですけれども、自分の夢をかなえたいとき、進路でいろんな選択をするときに、やはり理系でも文系でもいろんな形のとくに、英語というのがどんな場合もやはり出てくるのです。英語が必須の科目になっていたりするわけですので、やはり英語力をつけてあげたい。私がよく言っているのは、地域によってその差があってはならないだろうと。環境を整えてやるのはやはり行政であり、そういったことなのだろうと思えます。教育委員会が一生懸命やろうとしているときに、やはり予算的な措置だったり、いろんなハードルになる部分がありますので、その辺のところも市長も、教育長との連絡を密にして、バックアップしてほしい

いと思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 当然そうだろうというふうに思っております。我が国における教育そのもの、村上市における教育もそうだと思いますけれども、やっぱり国語力、まずは日本語、やっぱりこういうグローバル化した社会の中において、英語力がなければ、特に会話の部分だと思いますけれども、同じ土俵で勝負すらできないというような状況が多分あるのだろうというふうに思っております。ということは、やはり若いときからしっかりとそういうものになれ親しむということが必要だと思いますので、教育長、教育委員会ともよく連携をしながら、しっかりとその教育という柱の中で考えていきたいというふうに思っております。比較的先ほどお話し、教育長が答弁したとおり、なかなか厳しい状況ではありますが、しっかりと予算づけについては配慮をしているというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） しっかりとよろしくお願いします。

9ページのところに、学校と地域の連携、協働による学校運営を考えるコミュニティスクールの設置に向けた取り組みを進めるとありますが、この辺についてお伺いしたいものであります。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） コミュニティスクールというのは、学校運営協議会を設置した学校のことです。学校運営協議会というのは、保護者や地域の声を学校運営に生かすための学校づくり、そのための組織であります。そのようなものが法が改正されまして、教育委員会はその学校ごとに設置に努めなければならないとうたわれましたので、教育委員会としても計画的にコミュニティスクールの設置に前向きに取り組んでいるところです。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） こういった取り組みには、現在配置されている地域コーディネーターの存在が重要になると思われましても、この辺についてはどうお考えでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） 学校運営協議会のメンバーの中には、保護者、それから地域の有識者、そして今村上市でいう郷育会議、郷育会議の中におられる代表、そして地域コーディネーターの方、そのような方もメンバーとして参加していただかなければなりませんので、そのような方の声を聞いて学校運営に生かし、校長に協力していけるような学校づくりにしていきたいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 当初予算のこちらの概要版のところの11ページに、ICTを活用した教育環境整備1億2,598万円とありますけれども、どのような整備を進めていくのか、簡単でもいいので説明願いたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） それにつきましては、主に平成30年度は朝日地区、それから神林地区の現在リースしているパソコンがありますけれども、そのリースの交換、子どもたちが使うコンピューター室にあるパソコン、それから公務用に職員が使っているパソコン、そのようなものの入れかえ、タブレット型のパソコンを取り入れるとか、そのようにして子どもたちの教育の充実に努めていくところです。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） タブレットというのが出ましたけれども、各校に何台かずつ配置されていますね。ICTもいろいろ充実していると思うのですが、そのときに現場の声というのでしょうか、あとこういうソフトが必要だとか、いろんなのが出てくると思いますけれども、現場の声というのはいろいろと反映されているのでしょうか。実際使うのが先生方だと思いますので、その辺については学校教育課長、いかがでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 学校教育課長。

○学校教育課長（木村正夫君） ただいまの現場の声というご質問ですが、現在整備計画を策定しております。ですので、その整備計画の検討委員の中に先生方も含めて、今後平成32年度以降どういったICT環境を整えていくのか、また学校でどのような活用をしていくのかを含めて計画を策定しております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） タブレットは、まだ何台かずつしか入っていませんけれども、同じようなものを拡充していくような計画でしょうか、学校教育課長。

○議長（三田敏秋君） 学校教育課長。

○学校教育課長（木村正夫君） その辺も、この計画の中で先生方を含めて検討している最中ですので、まだこういうふうに配置するという部分でのうちとしての、教育委員会としての考え方はまだ持ってありません。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 今の考え方、すごくいいと思います。配置されたけれども、例えば使いづらいつらとか、そんな声があれば、1回入ったのだからずっと続けて、みんなに広げていくのだよということではなくて、やはり一度導入したのだけれども、現場の声を聞いたら、もっとこういうほうがいいという声が聞こえたのであれば、やはりそれは改善していくと、そういったことをぜひ教育長進めていただきたいと思います。いかがですか。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） 先ほど答弁させていただいたように、学校関係者の声を十分反映して、購入にも結びつけております。コンピューター室でも活用できる、タブレットを教室に持って行って

も活用できる、そのような有効利用ができる制度に努めてまいります。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 施政方針の4ページ、河川排水路の整備については、「大雨等による災害を未然に防止するため計画的に改修を進める」とありまして、これはやはり市民の安心安全のために大変重要なことだと思っております。平成30年度は、滝矢川の河川改修事業で1,000万円が計上されておりますけれども、雨が降ったときの滝矢川の現状というのは、市長ご存じでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 溢水する一歩手前ぐらいのところだったでしょうか、少し増水したところのやつを写真では見たことあります。現地を直接見たことはございませんけれども、写真は見たことがあります。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 大雨が降ると、ちょっと上流のほうから流れてくるカーブのところもあります。あと民家の裏のほうにそういうのが通っていて、まだまだ改修がおくれている、細いものですから、すごく水が上がってくるというのでしょうか、私も一度雨が降ったときに行ったときに、これは怖いという感覚がありました。平成30年度、20メートルまず改修するということですが、建設課長に伺いますけれども、あと何メートルで完成なのですか。

○議長（三田敏秋君） 建設課長。

○建設課長（中村則彦君） 平成30年度の予算につきましては、今ほど議員おっしゃいましたように、集落の上流部、神社のある、急にカーブになっているところがございますけれども、そちらのところが一番ネックになってございますので、その部分の改修を先行しようというようなことで、平成30年度の事業予算を組ませていただいております。全体延長につきましては、ちょっと今資料を出しますので……

○12番（小杉和也君） いいです、でもすぐ出るのであれば。

○建設課長（中村則彦君） いや、ちょっと。

○12番（小杉和也君） いいです、いいです。

○建設課長（中村則彦君） まだまだ改修、延長ございます。着手は合併前の平成19年に旧神林時代から事業着手してございますが、下流から整備してございまして、まだ3分の1ほどしか改修が終わっていないというような状況でございます。これから年次的に、その未改修の部分も改良していきたいと思いますが、とにかく悪いところ、溢水がしやすいところから先行して改修を進めてまいります。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） まだ3分の1ということですが、何年計画で完成させるなんていう青写真みたいなのは描いておられるのでしょうか、課長。

○議長（三田敏秋君） 建設課長。

○建設課長（中村則彦君） 今のところ、何年というようなところは申し上げられない状況でございます。必死に解消するために極力努力して、早期改修に努めたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 市長、雨が降ったときに、公務も忙しいと思いますけれども、本当に怖いのです、水が来そうで。ぜひとも写真だけではなくて、雨が降ったときの現場もぜひとも確認していただきたいと思います。よろしくお願いします。

次に、施政方針の5ページ、皆さんが余り触れていなかったところをちょっと質問していきたいと思いますが、村上市の村上市歴史的風致維持向上計画に基づく外観修景工事に対する工事費の一部助成とありますけれども、これを施政方針に盛り込んだ意図というのでしょうか、所見というのでしょうか、その辺のところをお伺いしたいと思います、市長に。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） まち並み、まちの風情、まちの持つそういう歴史であったり、そういうものというのは、やはりそこで育った人間を育てるのだろうというふうに思っております。村上市は、この歴史的風致維持向上計画の認定をいただいたわけでありまして。これは、国から高くその部分を評価をされました。しっかりとこれから後世に伝えるものとして、それを風致も含めて、まち並みとともに風致も含めて、それを保存、伝承し、またさらにそれを向上させていってくれということになっているわけでありましてから、これはやっぱりここに育て上げられた一人一人のやっぱり精神の基本的な部分、これはまち並みがつくり上げてきたものというふうに思っております。ですから、これからそういうここに生まれ育ったことへの誇りを子どもたちの中に抱いてもらいたいこととか、そういうことを大切につむいできた先人たちの思いをしっかりと我々も後世につないでいくという意味においては、いろいろな施策の中の一番ベースになる部分、精神的な支柱になる部分だというふうに常々思っているものですから、これは当然入るべきだというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 建設課長。

○建設課長（中村則彦君） 先ほど滝矢川の延長でございましたが、大変失礼しました。全体を見ると445.2メートルでございまして、今現在131.5メートル改修済みでございます。29.5%の改修率でございます。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 歴史的風致に戻りますけれども、この計画もなかなか簡単に受けられる計画ではございません。村上の魅力を上げるような取り組みかなと思うのですが、今後期待するイメージはどんな感じでしょうか、市長。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 重点区域につきましては、村上城跡を核とした、その城下町形成の部分であ

りますけれども、今回市域全体をこの計画範囲に網羅しているわけであります。それぞれの地区におけるそういう歴史的風致があるわけでありますから、これをトータルでしっかりと、村上市の全体の魅力として磨き上げていくということが必要だというふうに思っております。それを俯瞰的に見るのがなかなかできない、市道とかそういうものではできるかもしれませんが、個別にそこに行っていれば、そういうものを肌で感じ、その感動を得ることができるというようなところ、そういうメニューづくりも含めてしっかりやっていく。そこに暮らす人たちもそのことに誇りを持てるというようなことを実現できるような、そういうまちづくりって非常に魅力的だなというふうに思っているところであります。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） よろしく願います。

施政方針の11ページに地域おこし協力隊とありまして、主要事業説明書の31ページの中に、いろいろ拡充ということで書いてあるのですけれども、今までは各地域に対する地域おこし協力隊の導入だったように思います。平成30年度はその全域というものがくりとして入ってきているのが、今までとちょっと違うのかなというふうに読み取ったのですが、この辺については担当課長、全域というような考え方はどんなところから来ているのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（川崎光一君） 議員おっしゃるとおり、今までは受け入れてくれる地域とのしっかりと打ち合わせの中から導入を決めてまいりました。平成30年度からは、こちら記載にあるとおり、村上市全域を対象とした地域おこし協力隊の導入を考えております。一つは、グリーン・ツーリズムコーディネーター、こちらのほうグリーン・ツーリズムのほう協議会ございますので、そちらの活動をコーディネートしていただく専門的な知識を磨いていただくような協力隊、そういった協力隊を募集しております。

もう一人が、関係人口コーディネーターということで、こちらにつきましては今注目を集めております関係人口、こちらを中心に活動していただく人材を募集しております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） グリーン・ツーリズムの部分というのは、やはり村上市にとってすごく有効な部分かなと思うのですけれども、この辺副市長、村上市における重要性はどのように考えますでしょうか。また、この配置についてはどう思いますでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 副市長。

○副市長（忠 聡君） 村上市の魅力は、やっぱり何といっても恵まれた自然、そしてまたそこから生まれてくる食に通ずるものというふうに考えてございます。まさにグリーン・ツーリズムの趣旨に沿った背景が我が市にはあるわけございまして、それらをふんだんに活用していただける人材の配置というのが望まれるというふうに思います。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） しっかりと進めていただきたいと思います。

施政方針の10ページに、村上祭屋台行事の件が載っておりますけれども、こちら先ほどの風致と同じように、登載した意図とか所見を市長にお伺いしたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 関係者の皆様方、足かけ10年をかけて今回国指定の重要無形民俗文化財にまで押し上げていただきました、本当に心より敬意を表するとともに、お喜び申し上げているわけですけれども、こういうお祭りごと、お祭り行事につきましては、どの地域にも必ずあります。それは、そこに生まれ育った方々のやはり心のよりどころになってきたのではなからうかなというふうに思っております。さらに、今回山車行事として新潟県で初めて、そして全国でも36番目、今まで35の山車行事の皆様方、そのクオリティーを考えれば、一つ一つここでつまびらかに取り上げはいたしませんけれども、世界に冠たる日本の文化、これを全てあらわしているわけです。その一員として、今回村上の祭りの屋台行事が国から指定を受けたということでもあります。これは、やはり村上の大きな魅力が創出されたということで、これをしっかりと村上市の魅力として、これから後世にも当然つないでいかなければなりませんけれども、今我々がここで生活する一人一人にとりまして、それをしっかりとした効果を楽しむような、そういう形にしていくべきだろうというふうに思っております。ですから、私も少なからずその一端の部分の機関担わしていただいた経験もあるわけですので、思い入れもひとしおであります。しっかりとこの部分は磨き上げて、村上市民全体のやはり誇りとしてどんどん、どんどん向上させていくということの取り組みを進めたいと〔質問終了時間10分前の予告ブザーあり〕ということで、記載をさせていただきました。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） では、8ページ、ふるさと村上応援寄附金に対する返礼品につきましては、引き続き充実を図ってまいりますというふうに記載されていますが、担当課長に伺いますが、具体的なイメージ、どういうことでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 商工観光課長。

○商工観光課長（竹内和広君） おかげさまで好評を得て、ことしも2億円を超える寄附をいただいております。内容的に物品そのものが変わることはないと思いますが、昨年度初めて段階を、まず階層を多く設けさせていただきましたし、組み合わせとコラボレーションのほうもちょっと研究していきたいというふうに現在のところは考えております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 2ページの、先ほども出たのですが、子育て環境の充実についてですけれども、休日や雨天時にも親子で利用できる遊び場の提供ということで、雨天の話、市長さっきの答弁

でされていて、まちの駅とかというようなことも言われていましたけれども、休日の部分で私ちょっと質問させていただきたいと思うのですけれども、やはり圧倒的に子育て世代の方の話を聞くと、公園に行っても遊具がないと。前に一般質問させていただいたのですけれども、この辺のところでは、公園の遊具的な部分について何か進展とか、こういうふうに検討したとかありましたら教えていただきたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 公園の所有者そのものが非常にまちまちでありました。市の公園もあれば、民間の公園もある。また、町内でお持ちの公園もあるというような状況でありました。そこに設置をされている遊具につきましても、それぞれの所有者が設置をしているというところ、ですから少なくとも市の所有している部分につきましては、しっかりと老朽化対策等も含めて、それを検証してもらいました。そのリストアップと、その調査は終えているというふうに私自身は認識をしております。ただ、それを更新できるかどうかという部分については、まだ今検討中であります。ただ、危険を及ぼす可能性のあるものについては、早急に対応してくれという指示を出しているところがあります。

そういった状況の中で、やはりそれらについて、今遊具につきましてもいろいろと物が変わってきています。それが必要なもの、また危険でないものというのも含めて、これからやっぱり考えていく必要があるなということでもあります。ただ、具体的にここの部分をこうしていこうというところにはまだ至っていないという状況であります。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 子育て支援の方の声、すごくそういった部分も多いですので、十分まず、危険な遊具は設置はできませんけれども、トータル的に考えて、その辺のところをぜひ充実させていただければと思います。

施政方針の2ページ目の、多分これ高齢者の健康と安心な暮らしづくりという部分なのかもしれませんが、主要事業説明書の中の4ページに、高校生向け介護施設場見学者というのですか、こちら金額は少ないのですが、新規の取り組みなので、これはどういったことから計画して、どのような進め方をするのかお伺いします。

○議長（三田敏秋君） 介護高齢課長。

○介護高齢課長（小田正浩君） これ新規事業でございますけれども、介護人材の確保という観点で、高校生の方を対象にいたしまして、介護施設のほうを見学していただいて、これはハローワークと共催で話を進めていきたいというふうに考えております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 4ページのところに、ボランティアポイント事業というの、これも新規ですよ。この辺のようなことから計画したのかということ、参考にしたような事例とか何かあり

ましたらお教え願いたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 介護高齢課長。

○介護高齢課長（小田正浩君） これボランティアの活動の活性化を進めていこうということで計画したものでございまして、胎内市のほうに訪問させていただきまして、その活動を見学させていただきました。5ポイント、いろいろ事業、1時間以上の活動をしていただいた場合に1ポイントつけまして、5ポイント以上たったら500円のクオカードを配ろうかという〔質問終了時間5分前の予告ブザーあり〕計画でございます。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） ただいまの高校生向けの部分と、今のボランティアポイントの部分です、今後新規の計画ですので、市民の方に告知という部分も大切になるとは思いますけれども、どのような告知を考えておられるのかお伺いします。

○議長（三田敏秋君） 介護高齢課長。

○介護高齢課長（小田正浩君） 先ほどの高校生の関係は、学校のほうに資料等お上げしたいと思いますし、ボランティアポイントについても、市報等で流していきたいと考えております。あとはそういう事業の関係のことで、事業者のほうにも連絡させていただきたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） では、施政方針の3ページ、主要事業説明書の6ページになりますけれども、これも新規なのですが、ペアレントトレーニングというものがございまして、これ新規でございまして。これもどのようなことから計画したのかということと、専門性もちょっと考えなければならないと思うのですが、どのような進め方をするのかお伺いしたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 福祉課長。

○福祉課長（加藤良成君） 経緯につきましては、やはり支援をしていく人たちに対して、切れ目なき支援をしていこうというようなことで、その中でこういった方法が一番適正なのかというようなことが話になりまして、やはりこういったものが必要だろうというようなことで。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 悩んでいる親御さん多いのです、大きくなってからわかったというようなものがあって、教育長、この辺のところはやはり小さいころからの支援というのは、教育においても大切だと思っておりますけれども、いかがですか。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） おっしゃるとおり、発達障害に気づかず小さい子ども、児童に対応して、2次障害となって、例えば不登校につながるとか、そういうこともございますので、早期の対応が子どもにも親御さんにも必要なのだと思います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 今市の制度として、子若があるわけでありませけれども、いろいろな関係機関が連携をしてやっています。その中で、やはり出生からずっと成長していく中で、その課題を持っていくとなかなか容易ではないということで、早期発見、早期解消ということに取り組もうということで現場ではさせていただいております。所管が今福祉課かな、事務局なっておりますので、その辺のところをしっかりと機能していくためにも、こういう部分は必要だなということで、今回施策として新規に取り組みをさせていただいたということでもあります。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 福祉課で、本当に重要なところなのです、いろんな、小さいころからというのは、連携しながら、予算がそんなにボリュームがないのですけれども、非常にやはり大切な取り組みだと思います。新規ですので、それをうまくスタートさせる、十分研究させていただいて、いろんな形でこれが有効に働くように、それがいずれ学校教育の場においても力を発揮してくれると思いますので、今市長も答弁されましたけれども、かなり重要な部分ですので、予算が少ないからとかではなくて、新規で、私が何を言いたいかというと、新規でおこしたということは、非常に重要なことだと、予算のボリュームに限らずです。ですので、やはり新規事業に対しては、各担当課で真剣にまず取り組んでやっていただきたい、それで実績を残していただきたい。ここまで来る間に積み上げはしていると思います。しかしながら、またいろんな軌道修正をしたり、いろんな情報収集をしながら、その取り組みを進めていただきたいと思うのです。それを新規の部分もいろいろと聞かせていただきましたので、市長最後にいかがでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 非常に大切な部分、人を育てるという部分、人づくりという部分で一番スタートの部分でありますから、一番最初のところでしっかりとご家族も含めて、そういう形の対応ができるもの、今の保健医療のほうでもいろんな形で幼少期における障害の早期発見とかというものにも取り組みを新たにさせていただいておりますし、いろんな形で早くそれを発見することによって解消も早くできるということは、結果的にそれぞれの人の幸せにもつながっていくのだろうというふうに思っておりますから、このところはしっかりと、村上市の柱の施策として〔質問時間終了のブザーあり〕しっかりとやっていきたいというふうに思っております。

○12番（小杉和也君） ありがとうございます。

質問を終わります。（拍手）

○議長（三田敏秋君） 学校教育課長。

○学校教育課長（木村正夫君） ただいまの小杉議員のところに、ICTの整備環境計画、平成32年度から事業ということで私答弁させていただきましたが、計画については平成31年から平成35年までの5年間ということで訂正させていただきます。大変申しわけございませんでした。

○議長（三田敏秋君） ご了承願います。

これで市政クラブの代表質問を終わります。

午後 3 時 15 分まで休憩といたします。

午後 3 時 0 0 分 休 憩

午後 3 時 1 5 分 開 議

○議長（三田敏秋君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

○議長（三田敏秋君） 最後に、日本共産党の代表質問を許します。

14番、竹内喜代嗣君。（拍手）

○14番（竹内喜代嗣君） それでは、日本共産党の代表質問を行わせていただきます。

まず最初に、今回の豪雪被害では、被害を受けられた方、そして不眠不休で除雪やその他、対策として頑張ってこられた方に心から敬意を申し上げます。

また、皆様申し上げましたように平野歩夢選手の、いわば日本的な偉業、2年連続での銀メダル獲得、昨年には大けがをしてということでありました。今後とも頑張ってくださいこと、お祝いを申し上げて、施政方針、基本的な予算についての質疑を申し上げます。

もう大体出尽くした感がありますので、それで聞きたいのは、この問題でぜひということでも話もございましたので、洋上風力発電事業のことでお伺いをしたいと思います。事業者が事業化を断念したということでした。これではもうこの事業は進まないのかと思いましたが、今後とも推進委員会を続けるということでもございました。市長の所信表明でもそのことが出てまいりました。国では、長期にわたり海域を占有する海洋再生可能エネルギー発電設備の利用、基本方針を定めて云々というふうに書いてあります。国は、何か新たな施策、政策を示して、その上でこの推進委員会を継続するというようになったのかどうか、まずお伺いをしたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 今国会に法案が提案されるというふうにお聞きをしているわけでありましてけれども、詳細については環境課長のほうから、もし今把握している部分があればお知らせをしたいと思いますが、これは従来から、それこそ前回C O P23でありますけれども、地球温暖化に資するための施策としていろいろなメニューを出す中であって、この再生可能エネルギーの部分の議論については、これまでもしっかりと進められてきたところでありまして。一昨年の5月でありましたけれども、公安区域における洋上風力発電の法律改正がなされて、長期間その用地を占有できる仕組みに今変化をしているわけでありまして。これは、国がこれまでも従来から進めてきたそういう部分について、しっかりと今度は一般海域における洋上においてもそういう制度設計をしているということに変化をしてきたということは事実でありますけれども、これまでも粛々と取り組んできたこと、これを成果としてしっかりとなし遂げるというふうな、今タイミングになってきている

わけでありますので、我々としては足かけ3年かけて進めてきました洋上における風力発電事業、これは村上市のファクトとしてこれからも研究、調査をしていくのだという意思のあらわれというふうにご理解をさせていただきたいというふうに思っております。

個別の内容については、もしあれでしたら。

○議長（三田敏秋君） 環境課長。

○環境課長（中山 明君） 今入っている国の情報でございますけれども、3月に法案の提出を目指して進めているというところでございます。具体的な中身については、まだ承知していない部分多いのでございますけれども、今まで洋上風力発電につきましては、国が、はっきり言うと前面に出てこなかった部分ありますけれども、今後は法を整備して、国のほうも前向きに取り組んでいくというような法整備になろうかと思えます。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） 私自身は、この議会でも発言させていただきましたけれども、ドイツの基準があるのです、3海里沖とか、それから自然公園に面しているようなところにはつくらない、景観条例を持つところにはつくらないというようなドイツの基準があるのです。ですから、そういったものも国会で審議されるのかなということなのではないでしょうか、わかる範囲でお答えください。

○議長（三田敏秋君） 環境課長。

○環境課長（中山 明君） 詳細については承知しておりませんが、そういう海岸からの離れとか、そういう部分の法整備ではないというふうに聞いております。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） それでは、見解が分かれているから言っても結論変わらないのしょうけれども、つまり具体的に、この岩船沖については非常に不安を持っていらっしゃる方が多くいらっしゃる、これは現実であります。景観が損なわれる、あるいは風力発電によるいろいろな健康被害があるのではないかと、あるいは魚たちに影響があるのではないかと不安を持たれている方がいらっしゃいます。こういった施策が今回の国会では、まだそこまで、私に入っている情報でもそういう議案が提案、国会で審議されるというふうにも聞いておりません。ですから、私はこの委員会を継続する意味は、そういうのが立ち上がって、法律が決まって動き始めた時点で委員会を継続してもいいのではないかなと思えます。このことをまず指摘をさせていただきます。

それから、エネルギーの問題では、現在の到達点で考えますと、東日本の大震災、そしてあの原発事故に見られるように、もう二度とあの過酷な原発事故を起こしてはいけないと、その検証も済んでいないという中で、エネルギー政策は、そして経済政策も一緒でございますが、大きく転換すべきであろうと考えています。地産地消、つまりよその国からエネルギーを買って、そして電気をつくって経済を循環させる仕組みから、日本のこういう地震列島ですから、何があるかわからない状況のこの地震列島日本でありますから、各地域で地産地消型のエネルギーが、まさに21世紀、22世

紀、100年、200年の産業革命以来の展開になるのではないかという意見がございますが、私はまさしくそのとおりだと考えています。恐らくそういう転換がなされるだろうというふうに考えています。ですから、再生産できるような、再循環できるようなエネルギーシステムをつくっていかうという方向性に対しては、市長と全く同感ではありますが、その手法が例えば太陽光の発電所をつくっていくとか、あるいは風力にしても、今研究が進んでいますから、すごく小さくて効率がよくて、低周波の問題もクリアできるようなものが研究されています。そうしたものが主流になっていくことが必要ではないかなというふうに考えます。

答えてもらえないこと聞いてもしようがないので、お聞きしたいのは、こういう地産地消型の経済、これこそが今後の村上市にとって必要な施策ではないかということで、基本的な考え方の中で市長のお考え、伺います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 国のエネルギー政策の中で、国全体として必要なエネルギーもあるわけですから、それはしっかりと議論をしていただく。また、その媒体としてどういうものがあるのかというのは、多分竹内議員とそう違わないところの視点だろうというふうに私自身も思っております。地産地消のエネルギーという部分でありますけれども、これもある程度可能性としては研究をしなければならない部分だろうなというふうに思っております。

そういった意味において、今日まで岩船沖洋上風力発電の議論の中でも、そこで発電されたエネルギーはどこで使われるのだという議論もありました。ですから、それが例えば地域に還元されるものであればいいのか悪いのかという議論も含めて、それをこれからしっかりと推進委員会の中でも協議をしていきたいというふうに思っております。これは、国の施策ができ上がってから委員会で検討しては、限りなく遅い作業になるというふうに思っておりますので、今ここで3年間やった知見をしっかりと磨き上げて、その中で出た課題も含めて、逆に言うとこれは県、国に対しても村上市から提言をしていくことができる、現に私も各省庁にお邪魔をしたときには、村上ではこういうことが課題だったということが、それぞれ各省庁の皆様方にもお伝えをしております。これは絶対必要なことだろうというふうに思っておりますから、推進委員会の中でこれからも不断の協議、研究を進めていきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） では、もう一つ。推進委員会の中から事業者がいなくなったわけですから、では、その推進委員会、いろいろ研究するのでしょうかけれども、どういうメンバー構成で、内容は今市長がおっしゃいましたのでわかったのですが、やられるのか、誰がいいのか、課長がいいのかな、環境課長お願いします。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 事業予定者につきましては、先ほど環境課長のほうから答弁をさせていただ

いたとおりであります。次の推進委員会の中でお諮りをしながら、一旦引いてもらおうと、退いてもらおうというような格好になるのだろうというふうに思っております。今条例に基づいて設置しております委員でありますので、ここのところに手を入れるということになりますと、また議会の皆様にご提示をしながら、変化をさせていかなければならないという作業でありますので、この3月に予定しております推進委員会の中で、そこも含めて提案をさせていただいて、推進委員会の今後のあり方についてしっかりと煮詰めた上で、また改めてご提案を申し上げたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） そうすると、まだ余り中身はよく決まっていないということなのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 明確に決められてあります。ですから、事業予定者がいなくなって、今その事業が推進をしないという形でありますけれども、洋上における風力発電事業は村上市の環境基本計画の中に基づく、その施策の一環としてやっているわけでありますから、それはしっかり進めます。今条例がありますよね、条例の中で委員の選出分野が決められてあります。その中から条例に基づいて選出をさせていただいている委員がいて、任期途中であるわけでありますから、そのところはそれぞれに丁寧に説明をしていかなければならないと思います。ですから、そのあり方も含めて、それは昨年11月の推進委員会の中で一旦提示をさせていただいて、次の委員会の中でその方向について改めてお示しをさせていただくということを言っているわけでありますから、私はこれまで申し上げてきたとおりに粛々と作業を進めているということでありまして、全く何も予定されていないということではありません。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） それでは、市長もきょうずっと議論されてきた中で、自分からきちんと課題をお話しになっていたかと思えます。それを聞いていて私思ったのは、いわゆる駅周辺の開発事業もそうですけれども、これからの施策について、財政と相談しながらやっていくのだというようなことだったかと思えますが、一言で言えば、私がお提案申し上げたいのは、開発優先ではなくて、貧困対策としての市民生活優先の市政をぜひお願いしたいということでございます。

何かといいますと、この間いろいろ担当課長さんにもお聞きしたりもしたのですが、今この村上市はどうなのかと思ったのですが、多分日銀の新潟支店に聞けば具体的なことはわかるのでしょうかけれども、国全体では日銀が発表しています。アベノミクスの5年間で、大株主は上位300人の資産は2.7倍にふえました。その一方で、金融資産を持たない世帯は12年の1,347万世帯から、17年は1,748万世帯へと400万世帯も増加した。その世帯というのは、昨年のデータであります、昨年で言えば5,340万世帯ということですから、3割の世帯が貯蓄がない世帯という大変な状況とな

っています。何かあればもうやっていけない人たちが3割だと。恐らく私も一応議員を皆さんに負託されて仕事させていただいておりますが、いろんな生活相談、深刻な、本当に深刻な相談寄せられて、どうしたらいいのかなと自分でも思っているのですが、やっぱりそうなのだと思います。つまり確かに3件に1件の人には全く貯蓄がないと。こういうことであれば、高齢化も進んでいるわけでありますから、一旦何かがあればもうやっていけない大変な状況に陥っていくと思うのです。

それで、市長がよくおっしゃるわけですがけれども、市民みんなが笑顔あふれるまちを私は目指すのだとおっしゃっています。私も全く同感でありますし、その立場を尊重したい、ぜひとも実現させていただきたいと思っております。そこから考えますと、3割の世帯が、いわば貧困世帯、そして子どもの貧困の問題でいえば、去年の段階で就学援助を申請している子どもが500人を超えていた、去年の夏ぐらいで508とおっしゃったような気がしたのですが、大変な子どもたちの置かれている状況もあると思います。

ですから、今回の予算組み見ると、ちょっと数が違いましたか、ではこれは福祉課になるので、就学援助の申請をして、就学援助を受援している子どもの数というのは……就学援助ではなくて、お願いします、ちょっと。

○議長（三田敏秋君） 就学援助ですか。

○14番（竹内喜代嗣君） はい、就学援助。

○議長（三田敏秋君） 学校教育課長。

○学校教育課長（木村正夫君） ちょっと人数について今お答えできませんが、若干ふえていますことはふえております。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） 子どもたちが困っているということでは、扶養手当の申請なさっているご家庭というか、子どもの数というか、これは把握なさっているのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 福祉課長。

○福祉課長（加藤良成君） 扶養手当というのは、児童扶養手当ということで理解してよろしいでしょうか。平成29年4月1日現在、550ということでございます。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） 児童扶養手当の状況もこのような状況ということで、市内のご家庭、高齢者の家庭も、あるいは子育て中の家庭もこのような状況、大変な状況であるというふうに考えます。

そこで、今回の施策では、国民健康保険税では税額が、税でいうと去年と同じということでありました。これは据え置かれるというふうに考えていいのでしょうか、税務課長お願いします。

○議長（三田敏秋君） 税務課長。

○税務課長（建部昌文君） 国民健康保険税の税額でございますけれども、今回の議会で国民健康保険税の税率の改正についての議案を提案させていただいておりますけれども、それによりまして税

率等変わることとなります。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） 平均でいうと、税額はふえるのでしょうか、据え置かれるのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 税務課長。

○税務課長（建部昌文君） 1人当たりの税額は減る見込みとなっております。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） 福祉施策で申し上げますと、就学援助の額も昨年と同額というふうに、プラス・マイナス・ゼロということで提案されていたかと思いますが、私の解釈でよいのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 学校教育課長。

○学校教育課長（木村正夫君） 就学援助につきましては、単価的には今年度、平成29年度に入学準備金が引き上がりましたので、それを踏まえて計上させていただいております。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） 今回の予算組みは、ということで子どもたちに対して配慮していただいたのだと、あるいはこれ以上国保税上げられたら生きていけないというようなことで口々におっしゃる方、大変いっぱいいらっしゃいます。年金は物価がどうなるかが、毎年下がっていく仕組みをもつてくっているわけでありまして、これは生きていけないと皆さんおっしゃるのは全くそのとおりだと思います。市長は、ことしの予算でそういうふうにつくってくださったので、これは私はありがたいなと思っています。ご自分でおっしゃっているように、何とアベノミクス岩盤規制にドリルをあけるのか何だか、要するに皆さんにこれから、ちょうど選挙が終わってからになるような仕組みになっているようでありますが、5年後、6年後、参議院選挙が終わった後ぐらいに、納税者、国民の皆さんにも負担をしていただくというようなことを発表して、総理大臣発言なさっているわけですが、この負担増についてどういうふうにお考えか、市長お答えできたらお願いします。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） その4年後、5年後に納税者に負担をお願いするというのが、何を指すのかちょっとわからないのでありますけれども、また先ほど開発優先から市民生活優先へというふうに考えてくれという話でありましたが、何を指して開発をとおっしゃっているのかというのも少し、私とはその考え方が違うのかもしれませんが、いずれにしましても、しっかりとその生活、いろいろな分野にいらっしゃる方々の生活を支える、そのときに必要な手だてをしていくということで、今回就学児童に対する援助につきましても、平成29年度中に措置させてもらったものを踏まえれば改善をしているわけでありまして、ただ、今回の国民健康保険の制度改正に伴う部分は、実は今激変緩和の部分で措置されている部分がありますから、これは将来的に持続可能なものであるかどうかということは、慎重に見きわめなければならないということを担当課のほうにも指示して

おりますし、現在所管の中でもその辺の議論については提案をさせていただきたいということで考えているところであります。

いずれにしましても、今ことしだけで終わるわけではありませので、それが継続させていくことによって、それがどういうふうな変化を来したとしても、それに対応できるような形で制度設計していかなければならないというふうに思っておりますので、引き続き慎重に私はそのこのところは見きわめたい。ですから、国の制度、施策についても、これまで慎重に、またしっかりとその情報収集に努めて、それに対応してきているつもりでありますので、これからもそういう立場で努めていきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） 国保は一般質問にも載せていますし、あえては、今市長おっしゃられたように国保〔質問終了時間10分前の予告ブザーあり〕改革の問題では、県に制度が移管されていくわけではありますが、これが今一般会計から繰り出している自治体、あるいは繰り上げ充用というのだそうですけれども、そういうふうに財政操作してやりくりしている自治体が、新潟県内半分以上だそうであります。これを保険者に全部負担させるようになると、そして村上市のような高齢者が多くて、収入の少ないようなところにも負担をしてもらうということになれば、大幅に値上げがなされるのではないかとこのように心配をしているわけであります。

そこで、今後の、例えば大規模開発というのは、つまり村上駅周辺整備事業計画のことを指すわけではありますが、100億円にもなるかというような最初の話でありましたが、恐らくそれではとまらない額になるかと思うのですが、私このたび一般質問でも通告いたしておりますが、空き家対策でいろいろと調べました。国土交通省の施策としては、社会資本総合整備計画ですか、この枠の中で自由にできるところと、理屈にかなったところ、さっきの防災整備交付金で滝矢川できるわけですけれども、こういったものも含めて国の、50%補助ぐらいになるみたいですが、そういう整備が可能であるということでした。

住宅リフォームについては、個人の資産に対する支援はできないという原則があるということなのですが、昨年も発言させていただきましたが、全国的な空き家は大きな問題、国家的損失だというような大それた議論したのですが、国がそれを取り上げて、空き家対策ということであればかなり柔軟に制度設計できると。ただし、例えば村上市が駅周辺で150億円も使うような計画を持っているとすれば、これは当然そっちが優先されるであろうというふうに考えますし、そうではなくて、具体的な質問が、今質問で申し上げますけれども、いろんな若者の定住促進になるようなやつとか、あるいは家賃を非常に安くして暮らしやすいまちにするとか、そういう施策も含むわけではありますが、空き家を利用するということにはなるのですが、そういったプランというか、メニューもあるということです。それを選択するかどうかは、この村上市の問題ですということでした。歴みち事業というのですか、それは行うということで一方決まっているわけありますから、私がいう大規模開

発ではなくて、そうしたストックマネジメントも含めた施策を全体として展開していく必要があるのではないかなと思うのですが、市長のお考えを伺います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 個別の施策につきまして、私も調査不足でございまして、逐一回答することができないわけでございますけれども、申しわけございません。

駅周辺のまちづくりにつきましては、100億円もしくは150億円という、今ご発言あったわけでありまして、そこまでの金額を推計をしたものではないというふうに認識をしております。ただ、これにつきましては、もう既に基本構想としてまとめ上げられた市の施策であります。これを度外視して、それをひっくり返して別なものにするというのは、これは現在の行政の中ではそれは不可能だというふうに理解をしているところであります。これまでもそういう形で皆さんが作り上げてくれた、市としてもそれを了とした、その基本構想に基づいて粛々と進めていく。ただ、これにつきましては、その財政が許す範囲ということもあるわけでありまして、先ほど来申し上げておりますとおり、私が何を優先度として上げていくのかということも当然必要になるわけでありまして、そのところは真剣に〔質問終了時間5分前の予告ブザーあり〕議論させていただきながら、改めてそれを進める際には議会にもご提案をするという作業が当然必要になるわけでありまして、その中でまたしっかりと議論させていただければありがたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） 最後に一つだけ、税金を滞納して困り果ててしまって相談に来る方に、総合的な対応する、商売をやっている方であれば資金繰りの話、あるいは健康相談であれば保健師さん、あるいは追い詰められた人というのは多重債務者であったりもするわけでありまして、そうすると司法書士さんや弁護士さん、こういった方で総合的に対応して、実際窓口と一緒に行って相談にのってもらったこともあります。家族の人が精神障がいを持つような状況になっているとか、そういう方いらっしゃいます。そうすると、単純におまえ税金滞納しているのだから、家売っ払って、もう差し押さえてどうにでもなれみたいなことはできない、それは税務課でもきちんと見てもらってはいるのですが、笑顔あふれるまちということで、自殺防止ですか、モデル事業をやられるということなので、以前にも提案したことあるのですが、そういう総合的に対応するような補助事業だから、きっと補助金も出るのしょうから、ぜひ検討してほしいのですが、いかがでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 現在それぞれの事案ごとに、多分異なる内容だと思います。各担当課のほうの窓口でしっかりと対応しているところだというふうに理解しておりますけれども、議員ご提案のそういうものにつきましては、これだけ今の社会の中が非常に混沌としている、生きるのが切ない部分も当然あります。ですから、そのところにしっかりと目を向けて対応していくという、そういうポジションというのは確かに大切だというふうに思っております。

自殺予防対策の中、今厚生労働省と連携をしてモデル事業でやらせていただいておりますけれども、その中でそういう制度設計ができるのかどうかも含めて、今後の市のあり方としてしっかりと捉えて研究、また検討させていただきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） 「笑顔あふれるまち」という思いは市長も、あるいは管理職の皆さん全員と私ども同じ思いでございます。どうかよろしく願い申し上げます。

以上、代表質問を終わります。（拍手）

○議長（三田敏秋君） これで日本共産党の代表質問を終わります。

以上で代表質問を終了します。

ただいま代表質問の対象となりました議第10号から議第20号までの11議案については、平成30年度一般会計予算付託表、平成30年度特別会計予算付託表のとおり、会議規則の規定によって一般会計予算・決算審査特別委員会並びに各所管常任委員会に付託をいたします。

○議長（三田敏秋君） 以上で本日の日程は全て終了いたしました。

本日はこれで散会いたします。

なお、23日から本会議を開き、一般質問を行いますので、定刻までにご参集ください。

長時間にわたり大変ご苦労さまでございました。

午後 3時48分 散会